

# 資 料

用語解説	34
パブリックコメントの概要	38
農家意向調査集計結果及び前回との比較	39
市民意識調査集計結果及び前回との比較	53
農業・農地に関する市民の自由意見	72
武蔵野市農業振興基本計画検討委員会設置要綱	88
武蔵野市農業振興基本計画検討委員会名簿	90
武蔵野市農業振興基本計画検討委員会会議経過	91

## 用語解説

### か行

#### 家族経営協定

経営内の役割分担、就業条件、収益の分配、経営の継承などを家族の話し合いを通じてルール化するもので、後継者や配偶者などの経営に関する意欲の向上と能力の発揮を促すことを目的としている。

#### 環境保全型農業助成事業（市独自事業）

市民に安全・安心かつ新鮮な農産物を提供するため、農業者が行う環境保全型農業用資器材（自然崩壊性マルチシート等）の購入又は農地の土壌改良のための有機質肥料の購入に要する経費の一部を助成する事業。

#### 基幹的農業従事者

15歳以上で自営農業に従事している者のうち普段主に農業に従事している者をいう。

#### 経営耕地面積

農家が経営する耕地の面積で、農家所有の耕地に、借りて耕作している耕地を加えた面積。

#### コンポスト

生ごみなどの有機性廃棄物から作る堆肥、または堆肥化手法のことです。装置は自治体や企業が設置する大がかりなコンポスト化プラントから、家庭用の小型生ごみ処理機まで様々な形態がある。

### さ行

#### 災害時における農地使用及び生鮮食料品の調達に関する協定

災害時に農地を避難場所として提供することや、被災者への食料調達で地場野菜などを供給することを定めている。

#### 自然崩壊性マルチシート

農作物の根元の保温シートで、従来のポリエチレンシート等と変わらない効果があり、さらに、土壌中の微生物によって水と炭酸ガスに分解されてしまうため、はがすことが不要で、そのまま土にすき込むことができるシート。

#### 食育

食育とは、国民一人一人が、生涯を通じた健全な食生活の実現、食文化の継承、健康の確保等が図れるよう、自らの食について考える習慣や食に関する様々な知識と食を選択する判断力を楽しく身に付けるための学習等の取組みを指す。

## 食料・農業・農村基本計画

食料・農業・農村基本法の基本理念や基本施策を具体化するものとして策定された計画。食料自給率の目標などを含み、おおむね5年ごとに食料、農業及び農村をめぐる情勢の変化を勘案し、施策結果に関する評価を踏まえ変更を行う。

## 食料・農業・農村基本法

食料、農業及び農村に関する施策を総合的・計画的に推進し、国民生活の安定向上及び国民経済の健全な発展を図ることを目的として、平成11年度に施行された法律。食料の安定供給の確保、農業の多面的機能の発揮等の実現を基本理念としている。

## 生産緑地

「都市計画法」による地域地区の一種で、市街化区域内農地において「生産緑地法」に基づき指定。生産緑地に指定されると、長期の営農が義務付けられる一方、税の軽減措置が受けられる。

## 相続税納税猶予制度

農地に係る相続税を一定の条件を満たした場合、納税を猶予して農業を継続できるようにする制度。この制度は営農が行われることが前提となっているため、農業経営をやめた場合などは猶予されている税額に加えて、利子税も納めることになる。

## た行

### 体験農園（農業体験農園）

市が管理する市民農園とは異なり、農家が開設し、耕作の主導権をもって経営・管理している農園で、利用者は入園料を支払い、園主（農家）の指導のもと、種まきや苗の植え付けから収穫までを体験する農園のこと。

## 宅地化農地

市街化区域内で生産緑地の指定を受けていない農地で、宅地並み課税を受ける農地。

## 地産地消

地域で取れたものを、その地域内で消費すること。

## たちげ 立毛品評会

農産物を農地で生育している段階で評価する品評会のこと。

## 中核的農家

年間農業従事日数150日以上の16歳以上60歳未満の男子農業専従者がいる農家。

## トレーサビリティ

農産物や食品が、「いつ・だれが・どこで・どのように」生産、流通されてきたかという情報（生産履歴）を消費者が把握できるようにする仕組み。

## 登録農地制度（市独自事業）

生産性の高い5 a以上の農地で、農業経営を10年以上継続する見込みのあるものを登録農地に指定し、農地の保存協定を締結する。協定を結んだ農家の農業経営に必要な農業近代化施設等の導入に要する経費の1/2（5 a当り5万円、面積80 a限度とする）を補助するもの。

## な行

### 認定農業者

「農業経営基盤強化促進法」の規定に基づき、農業者が自ら作成する「農業経営改善計画（5年後の経営目標）」を区市町村が認定した農業生産者のこと。

### 農業委員会

農業者の公的代表として公選等により選出された農業委員により構成される市の行政委員会。農地法に基づく業務のほか、農政対策や担い手の育成、農業者への情報提供などにかかる業務を行っている。

### 農業委員選挙人名簿

公選の農業委員を選出するための選挙を行うために、一定の要件（年間60日以上耕作、10 a以上の農地、20歳以上）を満たした農業者の申請に基づき選挙管理委員会が作成する名簿。

## 農業経営基盤強化促進法

効率的かつ安定的な農業経営の育成を図るため、育成すべき農業経営の目標を明らかにし、その目標に向けて農業経営の改善を計画的に進めようとする農業者に対して、農用地の利用の集積、農業者の経営管理の合理化、農牛経営基盤の強化を促進するための措置を総合的に講じることを定めた法律。

## 農業公園

農業振興を図る交流拠点として、生産・普及・展示機能、農業体験機能、レジャー・レクリエーション機能等を有し、農業への理解の増進や人材の確保育成を図るための公園。

## 農業センサス

国際連合食料農業機関の世界農林業センサス計画に沿って昭和25年から始まった統計調査で、10年ごとに世界農林業センサスとして、その中間年に日本独自で農業センサスとして実施されている。

## **農業ヘルパー**

農業従事者の高齢化や人手不足に対応した補助的な担い手として、一定レベルの技能を修得して、有料で農作業を手伝う人材のこと。

## **農地転用**

農地を農産物の生産以外の用途（住宅・駐車場・道路など）に変更すること。転用に当たっては農地法の許可または届出が必要となる。

は行

## **ポジティブリスト制度**

農薬等の残留基準を設定し、一定量以上の農薬等が残留する食品の流通を禁止する制度。

## **フェロモン剤**

害虫のフェロモンを利用して、害虫の交信をかく乱して繁殖を抑えたり、害虫を誘引捕殺することにより、農薬の散布回数を減らすことができる防除法として使用。

## 農業振興基本計画見直しの案に対するパブリックコメントの概要

- 1 募集期間 平成 22 年 10 月 15 日から平成 22 年 10 月 29 日まで
- 2 周知方法 平成 22 年 10 月 15 日号市報及び市ホームページに掲載
- 3 募集方法 現行計画と見直し後の計画案を対比表にした冊子を作成し、生活経済課、市政資料コーナー、各市政センター、図書館 3 箇所において配布
- 4 意見の提案方法 電子メール、FAX、郵便
- 5 意見の提案件数 3 件（電子メール 2 件、FAX 1 件）
- 6 意見の取り扱い方針

No.	施策の方向性	意見の要旨	取り扱い方針
1	都市農地の多様な機能の発揮	市民農園の拡大と農業ふれあい村の農業塾の継続を願う。	市民農園の拡大については、16 ページ～17 ページ、重点施策の（3）市民とふれあう農業の項で市民農園の区画数の目標値を 1000 区画にすると掲げてあります。 農業塾については、18 ページ、④体験農園、市民農園、農業公園、学校農園等の推進の項で趣旨を記載しました。
2	都市農地の多様な機能の発揮	農業ふれあい村の農園では専門の講師が指導してくれる区画があり、丁寧な指導の下で野菜づくりを体験できる。このような農園運営の拡大、発展を期待している。	18 ページ、④体験農園、市民農園、農業公園、学校農園等の推進の項で趣旨を記載しました。
3	都市農地の多様な機能の発揮	農業ふれあい村で野菜作りを学んだ経験から、市民農園でも初心者が不安なく野菜作りができるように見本区画などを設置してもらいたい。	18 ページ、④体験農園、市民農園、農業公園、学校農園等の推進の項で趣旨を記載しました。

## 農家意向調査集計結果及び前回との比較

平成17年の計画策定時に実施したアンケート調査と同様の調査を行い変化の有無を確認し参考とするためアンケート調査を実施した。

### ● 調査対象等

	前回	今回	比較
農業委員会選挙人名簿登載農家	87	80	-7
調査年月	平成17年12月	平成22年6月	
回収件数	55	51	-4
回収率	59.0%	63.8%	4.8%

【特徴】農家数は7戸の減であるが、回収率は前回は上回っており、意識の高さが伺える。

### 問1 回答者の性別について

#### 【回答】

回 答 肢	前 回 ( 5 5 )		今 回 ( 5 1 )		比 較	
	前 回 数	前回構成比	今 回 数	今回構成比	数 の 差	構成比の差
1 男	51	92.7%	49	96.1%	-2	3.4%
2 女	3	5.5%	2	3.9%	-1	-1.6%

【特徴】代表者は、5年前と変わらず9割以上が男性である。

### 問2 回答者（代表者）の就業状況について

#### 【回答】

回 答 肢	前 回 ( 5 5 )		今 回 ( 5 1 )		比 較	
	前 回 数	前回構成比	今 回 数	今回構成比	数 の 差	構成比の差
1 農業に専従	16	29.1%	12	23.5%	-4	-5.6%
2 主として農業に従事	27	49.1%	35	68.6%	8	19.5%
3 主として農業以外に従事	11	20.0%	4	7.8%	-7	-12.2%

【特徴】専従者及び農業以外従事者が減少、主として農業に従事する代表者の割合が増えた。

### 問3 家族の年間農業従事日数

#### 【回答】

前回 (55 戸) 就労状況	男				女				日数別従事者	
	60歳以上		60歳未満		60歳以上		60歳未満		計	
年間60日未満	1	0.9%	0	0.0%	1	0.9%	19	17.6%	21	19.4%
年間60日～149日	7	6.5%	1	0.9%	3	2.8%	4	3.7%	15	13.9%
年間150日以上	10	9.3%	39	36.1%	23	21.3%	0	0.0%	72	66.7%
男女別等総従事者数	18	16.7%	40	37.0%	27	25.0%	23	21.3%	108	100.0%

今回 (51 戸) 就労状況	男				女				日数別従事者	
	60歳以上		60歳未満		60歳以上		60歳未満		計	
年間60日未満	3	2.5%	3	2.5%	7	5.8%	3	2.5%	16	13.2%
年間60日～149日	7	5.8%	7	5.8%	17	14.0%	10	8.3%	41	33.9%
年間150日以上	26	21.5%	22	18.2%	11	9.1%	5	4.1%	64	52.9%
男女別等総従事者数	36	30.0%	32	26.4%	35	28.9%	18	14.9%	121	100.0%

【特徴】男女ともに60歳以上の人数が60歳未満数を上回っており、前回より高齢化が伺える。

### 問4 あなたを含めた家族数は何人ですか。

#### 【回答】

家族数	前回 (55)		今回 (51)		比較	
	前回数	前回構成比	今回数	今回構成比	数の差	構成比の差
1 (1人)			1	2.0%	1	2.0%
2 (2人)	1	1.8%	7	13.7%	6	11.9%
3 (3人)	14	25.5%	4	7.8%	-10	-17.7%
4 (4人)	4	7.3%	14	27.5%	10	20.2%
5 (5人)	11	20.0%	8	15.7%	-3	-4.3%
6 (6人以上)	19	34.5%	14	27.5%	-5	-7.0%

【特徴】前回に比して4人世帯の割合が急増した。



居住地区について

【回答】

回 答 肢	前 回 ( 5 5 )		今 回 ( 5 1 )		比 較	
	前 回 数	前 回 構 成 比	今 回 数	今 回 構 成 比	数 の 差	構 成 比 の 差
1 (東)	2	3.6%	1	1.9%	-1	-1.7%
2 (南)	0	0.0%	0	0.0%	0	0%
3 (御)	2	3.6%	1	1.9%	-1	-1.7%
4 (本)	1	1.8%	0	0.0%	-1	-1.8%
5 (北)	7	12.7%	7	13.7%	0	-1.0%
6 (中)	1	1.8%	1	1.9%	0	-0.1%
7 (西)	3	5.5%	5	9.8%	-2	-4.3%
8 (緑)	0	0.0%	0	0.0%	0	0
9 (八)	6	10.9%	5	9.8%	-1	-1.1%
10 (関)	13	23.6%	12	23.5%	-1	-0.1%
11 (境)	10	18.2%	10	19.6%	0	1.3%
12 (境南)	5	9.1%	7	13.7%	2	4.6%
13 (桜)	2	3.6%	2	3.9%	0	0.3%

【特徴】 東部地区の農家数減がこの調査にも現れている。

問5 あなたの所有する農地の面積は（市内と市外について）（単位：a）

		市 内			市 外		
		前 回 ( 5 5 )	今 回 ( 5 1 )	比 較	前 回 ( 5 5 )	今 回 ( 5 1 )	比 較
1	所有している農地面積	2119.8	1638	-481.8	1505.3	717	-788.3
2	1. の内、貸し付けている農地	17.6	30	12.4	100	141	41
3	借り入れている農地	0	0	0	25	15	-10
4	不 作 付 け 地	0	1	1	9	0	-9
5	経営（耕作）している農地面積	1332.8	1256	-76.8	968.9	369.2	-599.7
6	5. の内、ハウス等の施設面積	21.5	40.8	19.3	0	0	0

【特徴】 農地の減少傾向が見て取れるが、市外の減少割合が高いことから、市内の農地については保全が図られている。前回よりもハウス等の施設面積が増え、周年栽培や端境期対策等への取り組みが推進されていると思われる。

問6 経営（耕作）している農地面積（市内と市外）。

【回答】

	市内			市外		
	前回（55）	今回（51）	比較	前回（55）	今回（51）	比較
1 市街化調整区域内農地				758.0	233.2	-524.0
2 生産緑地指定農地	1775.6	1588.0	-187.6	471.4	155.0	-316.4
3 市街化区域内宅地化農地	153.0	87.0	-66.0	76.4	237.0	160.6

【特徴】 市外の調整区域内農地及び生産緑地の減が顕著であった。

問7 あなたの家の農産物販売方法はどれですか。1つ選んでください。

【回答】

回 答 肢	前回（55）		今回（51）		比較	
	前回数	前回構成比	今回数	今回構成比	数の差	構成比の差
1 直売のみ（JA新鮮館含む）	33	61.1%	40	78.4%	7	17.3%
2 契約販売と市場出荷	2	3.7%	0	0%	-2	-3.7%
3 契約販売と直売	3	5.6%	1	2.0%	-2	-3.6%
4 市場出荷を中心に直売も行う	1	1.9%	0	0%	-1	-1.9%
5 直売を中心に市場出荷も行う	8	14.8%	5	9.8%	-3	-5%
6 自給のみ	4	7.4%	3	5.9%	-1	-1.5%
7 その他	3	5.6%	3	5.9%	0	0.3%

【特徴】 直売中心の経営が約8割を占め、地産地消が更に浸透してきている。

問8 農産物の販売方法について、今後力を入れていくものをいくつか。

【回答】

回 答 肢	前回（55）		今回（51）		比較	
	前回数	前回構成比	今回数	今回構成比	数の差	構成比の差
1 市場出荷に力を入れたい	5	8.2%	2	3.2%	-3	-5.0%
2 直売所に力を入れたい	38	62.3%	40	63.5%	2	1.2%
3 観光農園で販売したい	2	3.3%	6	9.5%	4	6.2%
4 畝売りや株売りなど	4	6.6%	3	4.8%	-1	-1.8%
5 生協などに供給したい	1	1.6%	0	0%	-1	-1.6%
6 学校給食に供給したい	4	6.6%	7	11.1%	3	4.5%
7 地元のスーパーなどに供給	1	1.6%	1	1.6%	0	0%
8 その他	6	9.8%	4	6.3%	-2	-3.5%

【特徴】 直売中心である中でも、学校給食を新たな販売先として力を入れていきたいとの数が伸びている。

問9 今後、あなたの家は年間どのくらいの農業所得を目標にしたいですか。

【回答】

回	答	肢	前回（55）		今回（51）		比較	
			前回数	前回構成比	今回数	今回構成比	数の差	構成比の差
1	100万円未満		19	35.8%	13	25.5%	-6	-10.3%
2	100万円～200万円未満		11	20.8%	15	29.4%	4	8.6%
3	200万円～500万円未満		13	24.5%	11	21.6%	-2	-2.9%
4	500万円～800万円未満		7	13.2%	7	13.7%	0	0.5%
5	800万円～1,000万円未満		1	1.9%	1	2.0%	0	0.1%
6	1,000万円～1,500万円未満		1	1.9%	3	5.9%	2	4.0%
7	1,500万円以上		0	0%	0	0%	0	0%

【特徴】 前回とほぼ同じ割合であるが、1,000万以上の所得を目標に掲げる意欲的な農家が増えた。

### <これからの農業の方向について>

問10 農業を行っていく上で困っているものをいくつでも選んでください。

【回答】

回	答	肢	前回（55）		今回（51）		比較	
			前回数	前回構成比	今回数	今回構成比	数の差	構成比の差
1	通風や日陰、水はけの悪化		20	10.7%	19	11.4%	-1	0.7%
2	農薬散布が充分できない		30	16.0%	28	16.9%	-2	0.9%
3	空き缶やごみなどの投げ入れ		38	20.3%	34	20.5%	-4	0.2%
4	ハクビシンなどの被害		11	5.9%	9	5.4%	-2	-0.5%
5	カラス、ハトなどの被害		30	16.0%	26	15.7%	-4	-0.3%
6	後継者や担い手の不足		7	3.7%	7	4.2%	0	0.5%
7	農業の収益性		20	10.7%	18	10.8%	-2	0.1%
8	地価の高騰		7	3.7%	3	1.8%	-4	-1.9%
9	税の負担		24	12.8%	22	13.3%	-2	0.5%
10	その他		0	0.0%	0	0%	0	0%

【特徴】 前回とほぼ同様であり、困っていることが解決されていないことが伺える。

問 11 直売所について伺います。次の中から1つ選んでください。

【回答】

回	答	肢	前回 (55)		今回 (51)		比較	
			前回数	前回構成比	今回数	今回構成比	数の差	構成比の差
1	持っている		28	50.9%	29	56.9%	1	6.0%
2	持っていたがやめた		4	7.3%	4	7.8%	0	0.5%
3	今後持ちたい		7	12.7%	4	7.8%	-3	-4.9%
4	持っていない。今後も持たない		13	23.6%	11	21.6%	-2	-2.0%

問 12 直売所を持っている方にお尋ねします。あてはまるものを選んでください。

前 回 (55農家の内直売所を持っている28農家)										
①	品目について	増やしたい	8	28.6%	現状のまま	16	57.1%	無回答	4	14.3%
②	開店日	毎日	10	35.7%	特定日	6	21.4%	無回答	12	42.9%
③	開店時間	決めている	9	32.1%	決めていない	8	28.6%	無回答	11	39.3%
④	直売所の売り手	無人	11	39.3%	有人	11	39.3%	無回答	6	21.4%
⑤	場所	庭先	15	53.6%	農地のそば	9	32.1%	無回答	4	14.3%
⑥	売れ残り	多い	2	7.1%	だいたい完売する	15	53.6%	無回答	11	39.3%

今 回 (51農家の内直売所を持っている29農家)										
①	品目について	増やしたい	10	34.5%	現状のまま	17	58.6%			
②	開店日	毎日	10	34.5%	特定日	5	17.2%	特定時期	14	48.2%
③	開店時間	決めている	16	55.2%	決めていない	11	37.9%			
④	直売所の売り手	無人	12	41.4%	有人	17	58.6%	販売機	3	10.3%
⑤	場所	庭先	19	65.5%	農地のそば	11	37.9%	その他	2	6.9%
⑥	売れ残り	多い	3	10.3%	だいたい完売する	22	75.9%	その他	4	13.8%

比 較										
①	品目について	増やしたい	2	5.9%	現状のまま	1	1.5%			
②	開店日	毎日	0	-1.2%	特定日	-1	-4.2%			
③	開店時間	決めている	7	23.1%	決めていない	3	9.3%			
④	直売所の売り手	無人	1	2.1%	有人	6	19.3%			
⑤	場所	庭先	4	11.9%	農地のそば	2	5.8%			
⑥	売れ残り	多い	1	3.2%	だいたい完売する	7	22.3%			

【特徴】開店時間を決めている直売所が増えた。だいたい完売するが増え順調に伸びている様子である。

問13 今後の農業の経営意向について、次の中から1つ選んでください。

【回答】

回	答	肢	前回（55）		今回（51）		比較	
			前回数	前回構成比	今回数	今回構成比	数の差	構成比の差
1	将来とも農業を継続したい		24	43.6%	18	35.3%	-6	-8.3%
2	自分の代は継続したい		27	49.1%	28	54.9%	1	5.8%
3	農業を継続できる状況ではない		2	3.6%	1	2.0%	-1	-1.6%

【特徴】 将来に渡っての農業の継続意向が減少したが、自分の代は継続したいという意向が増加している。

問14 農業経営について、現在実行していること。また、今後実行したいと思うことをそれぞれいくつでも選んでください。

【回答】 \*現在

回	答	肢	前回（55）		今回（51）		比較	
			前回数	前回構成比	今回数	今回構成比	数の差	構成比の差
1	労働時間を定めている		5	8.2%	9	18.4%	4	10.2%
2	休日を定めている		11	18.0%	10	20.4%	-1	2.40%
3	給与を定めている		17	27.9%	10	20.4%	-7	-7.5%
4	後継者と作業分担している		10	16.4%	6	12.2%	-4	-4.2%
5	後継者等にある部門について責任を持たせている		11	18.0%	10	20.4%	-1	2.4%
6	その他		7	11.5%	4	8.2%	-3	-3.3%

【回答】 \*今後

回	答	肢	前回（55）		今回（51）		比較	
			前回数	前回構成比	今回数	今回構成比	数の差	構成比の差
1	労働時間を定めたい		7	14.0%	15	26.8%	8	12.8%
2	休日を定めたい		10	20.0%	14	25.0%	4	5.0%
3	給与を定めたい		6	12.0%	7	12.5%	1	0.5%
4	後継者と作業分担したい		7	14.0%	7	12.5%	0	-1.5%
5	後継者等にある部門について責任を持たせていきたい		16	32.0%	11	19.6%	-5	-12.4%
6	その他		4	8.0%	2	3.6%	-2	-4.4%

【特徴】 労働時間を定めることについて、意識が向上している。

問15 今後の農業経営の方向についてどう思いますか。次の中からいくつでも選んでください。

【回答】

回	答	肢	前回（55）		今回（51）		比較	
			前回数	前回構成比	今回数	今回構成比	数の差	構成比の差
1	農地を拡大したい（市外・都外も含む）		1	1.0%	2	2.0%	1	1.0%
2	農地を縮小したい		7	6.9%	6	5.9%	-1	-1.0%
3	施設などの利用によって高収益を目指す		7	6.9%	7	6.9%	0	0%
4	有機栽培や低農薬、無農薬栽培に取り組む		22	21.8%	15	14.7%	-7	-7.1%
5	土づくりを重視した農業に取り組む		30	29.7%	21	20.6%	-9	-9.1%
6	パソコン等を導入し、経営の合理化を図る		4	4.0%	6	5.9%	2	1.9%
7	認定農業者を目指す（認定者も含む）		--	--	9	8.8%		
8	少量多品目の農業を進める		19	18.8%	27	26.5%	8	7.7%
9	多量少品目の農業を進める		5	5.0%	4	3.9%	-1	-1.1%
10	市民農園などに農地を貸したい		4	4.0%	2	2.0%	-2	-2.0%
11	自ら経営する農業体験農園を開設したい		--	--	1	1.0%		
12	その他		2	2.0%	2	2.0%	0	0%

【特徴】少量多品目の農業意向が増え、有機栽培や低農薬、無農薬栽培に取り組むとの回答が減少している。（すでにやっているから？）

問16 あなたは有機農業や低農薬・無農薬栽培についてどう考えていますか。次の中から1つ選んでください。

【回答】

回	答	肢	前回（55）		今回（51）		比較	
			前回数	前回構成比	今回数	今回構成比	数の差	構成比の差
1	すでにやっている		25	45.5%	26	51.0%	1	5.5%
2	やってみたい		15	27.3%	7	13.7%	-8	-13.6%
3	やっているがやめた		1	1.8%	1	2.0%	0	0.2%
4	その考えはない		9	16.4%	15	29.4%	6	13.2%

【特徴】有機農業等に対して、その考えはないという回答が増え前問の回答傾向と一致している。

問 17 有機農業をすでにやっていると答えた方に伺います。有機農業や低農薬・無農薬栽培について、どのような努力をしていますか。次の中からいくつでも選んでください。

【回答】

回	答	肢	前回（55）		今回（51）		比較	
			前回数	前回構成比	今回数	今回構成比	数の差	構成比の差
1	有機肥料等を使用して、土づくりに努力している		27	42.9%	24	35.8%	-3	-7.1%
2	農薬の使用を少なくしている		21	33.3%	22	32.8%	1	-0.5%
3	化学肥料の使用を少なくしている		13	20.6%	16	23.9	3	3.3%
4	農薬や化学肥料を使っていない		2	3.2%	3	4.5%	1	1.3%
5	その他		0	0%	2	3.0%	2	3.0%

【特徴】土づくりに努力が減少傾向にあるが、化学肥料の使用を少なくしているとの回答が増えてきた。

問 18 有機農業や低農薬・無農薬栽培の問題点などについてどう思いますか。次の中からいくつでも選んでください。

【回答】

回	答	肢	前回（55）		今回（51）		比較	
			前回数	前回構成比	今回数	今回構成比	数の差	構成比の差
1	有機物が手に入らない、入りにくい		29	28.7%	8	10.3%	-21	-18.4%
2	手間や費用がかかる		22	21.8%	24	30.8%	2	9.0%
3	収量が低くなるのが心配		6	5.9%	8	10.3%	2	4.4%
4	周りと一緒にやらないと難しい		8	7.9%	7	9.0%	-1	1.1%
5	虫食いなどで売れない心配がある		29	28.7%	20	25.6%	-9	-3.1%
6	特に問題ない		7	6.9%	9	11.5%	2	4.6%
7	その他		0	0%	2	2.6%	2	2.6%

【特徴】問題点は、手間や費用がかかるとの回答が多い。

問19 土づくりに有機肥料をどのくらい使っていますか。次の中から1つ選んで、さらに有機肥料の使用量とその種類を記入してください。

【回答】

回	答	肢	前回 (55)		今回 (51)		比較	
			前回数	前回構成比	今回数	今回構成比	数の差	構成比の差
1	使用している		27	49.1%	32	78.0%	5	28.9%
2	使用していない		28	50.9%	9	22.0%	-19	-28.9%
10アールあたりの平均使用量			466kg		603kg		137kg	

【特徴】 平均使用量の増からも土づくりに有機肥料を との意思が高まっている。

### <農業の担い手について>

問20 あなたの家の後継者の農業従事者の状況についてうかがいます。次の中から1つ選んでください。

【回答】

回	答	肢	前回 (55)		今回 (51)		比較	
			前回数	前回構成比	今回数	今回構成比	数の差	構成比の差
1	すでに後継者が農業に従事している		22	40.0%	15	29.4%	-7	-10.6%
2	いずれ農業を継いでくれる予定である		15	27.3%	10	19.6%	-5	-7.7%
3	農業を継いでくれるかわからない		9	16.4%	18	35.3%	9	18.9%
4	農業には従事しない予定である		4	7.3%	4	7.8%	0	0.5%
5	子供がいない		3	5.5%			0	0.4%
5	その他				3	5.9%		

【特徴】 前回よりも後継者問題が深刻化しているといえる・

問21 問20で、すでに後継者が農業に従事していると答えた方は、その後継者の就業状況を1つ選んでください。

【回答】

回	答	肢	前回 (すでに従事22)		今回 (すでに従事15)		比較	
			前回数	前回構成比	今回数	今回構成比	数の差	構成比の差
1	農業に専従		11	50.0%	4	26.7%	-7	-23.3%
2	主として農業に従事		7	31.8%	8	53.3%	1	21.5%
3	主として農業以外に従事		3	13.6%	7	46.7%	4	33.1%

【特徴】 専従の後継者が少なくなっている。



問 22 あなたの家で農業に対して、女性はどのような役割を果たしていますか。次の中からいくつか選んでください。

【回答】

回	答	肢	前回（55）		今回（51）		比較	
			前回数	前回構成比	今回数	今回構成比	数の差	構成比の差
1	農業経営の中心となっている 労働力の中心的な担い手になっている		2	2.6%	5	7.0%	3	
			9	11.7%	--	--	--	4.4%
2	農業経営の補助的な担い手になっている		31	40.3%	34	47.9%	3	7.6%
3	ある部門（作物）について責任を担っている		7	9.1%	4	5.6%	-3	-3.5%
4	簿記や帳簿の整理を担当している		5	6.5%	7	9.9%	2	3.4%
5	直売所などの販売を担当している		15	19.5%	16	22.5%	1	3.0%
6	農業には携わっていない		8	10.4%	5	7.0%	-3	-3.4%

【特徴】 女性は補助的な担い手になっているとの回答が増えている。

問 23 これからのあなたの家の農業の担い手や労働力についてどのように考えていますか。次の中から2つ選んでください。《選択欄次ページにあり》

【回答】

回	答	肢	前回（55）		今回（51）		比較	
			前回数	前回構成比	今回数	今回構成比	数の差	構成比の差
1	後継者が中心となる		25	22.7%	18	17.6%	-10	-5.1%
2	自分たちで頑張る		24	21.8%	27	26.5%	3	4.7%
3	パートを雇う		4	3.6%	4	3.9%	0	0.3%
4	機械化による省力化を図る		11	10.0%	9	8.8%	-2	-1.2%
5	市民やボランティアの協力を得たい		16	14.5%	5	4.9%	-11	-9.6%
6	労働力に見合った生産方法を考える		2	1.8%	29	28.4%	27	26.6%
7	その他		0	0%	0	0%	0	0%

【特徴】 市民やボランティアの協力を得たいが減少し、労働力に見合った生産方法を考えるとの回答が増えており、背景にある後継者不足と高齢化が伺える。

問 24 今後、市民による援農ボランティアについて、あなたはどのように思いますか。いくつでも選んでください。

【回答】

回 答 肢	前回 (55)		今回 (51)		比較	
	前回数	前回構成比	今回数	今回構成比	数の差	構成比の差
1 経験があり熱心な住民であれば 主要な農作業を手伝って欲しい	15	23.8%	6	10.9%	-9	-12.9%
2 草取りなど補助的な作業なら手 伝って欲しい	21	33.3%	23	41.8%	2	8.5%
3 直売所の販売などを手伝って欲 しい	3	4.8%	1	1.8%	-2	-3.0%
4 市民の体験や生き甲斐などにも なり、積極的に対応したい	1	1.6%	1	1.8%	0	0.2%
5 市民との交流もできるので対応 したい	6	9.5%	5	9.1%	-1	-0.4%
6 わからない	15	23.8%	18	32.7%	3	8.9%
7 その他	2	3.2%	1	1.8%	-1	-1.4%

【特徴】 草取りなど補助的な作業なら活用できるとの回答が多い。

### <相続による農地の変化について>

問 25 相続に伴う農地の分割・維持についてどう考えていますか。次の中から1つ選んでください。

【回答】

回 答 肢	前回 (55)		今回 (51)		比較	
	前回数	前回構成比	今回数	今回構成比	数の差	構成比の差
1 農業や家を継ぐ子どもに相続させ、できるだ け農地は維持したい	29	52.7%	22	43.1%	-7	-9.6%
2 農業や家を継ぐ子どもに大部分相続させ、一 部は分割相続させたい	10	18.2%	11	21.6%	1	3.4%
3 農地の一部を売却して、その他の子どもたち には金銭で解決したい	7	12.7%	8	15.7%	1	6.4%
4 子どもたちに平等に分割したい	4	7.3%	2	3.9%	-2	-3.4%
5 わからない	2	3.6%	7	13.7%	5	10.1%

【特徴】 前回よりも農地を維持したいとの回答割合が減少してきている。

## <地域住民とのふれあいについて>

問 26 地域住民とのふれあいについてどんなことを望みますか。次の中からいくつでも選んでください。

### 【回答】

回	答	肢	前回（55）		今回（51）		比較	
			前回数	前回構成比	今回数	今回構成比	数の差	構成比の差
1	直売所での販売を通じてふれあいをもちたい		25	33.3%	30	34.5%	5	1.2%
2	旬の農産物の調理方法などの講習等を通じてふれあいをもちたい		5	6.7%	4	4.6%	-1	-2.1%
3	農作業への協力、農業体験を通じてふれあいをもちたい		7	9.3%	8	9.2%	1	-0.1%
4	地域の行事などを通じてふれあいをもちたい		17	22.7%	24	27.6%	7	4.9%
5	子どもたちの農業体験など学校を通じてふれあいをもちたい		14	18.7%	15	17.2%	1	-1.5%
6	まちづくり・地域づくりについての懇談会等に参加し、市民とふれあいをもちたい		5	6.7%	4	4.6%	-1	-2.1%
7	その他		2	2.7%	2	2.3%	0	-0.4%

【特徴】 地域イベントへの参加意欲は高く、また直売を通じてのふれあいを希望するなど地域との交流に対する関心の高さが伺える回答が多い。

問 27 農業に関する体験活動等が、食に関する関心および理解を増進するうえで重要な意義を持つといわれています。あなたは今までに農業体験の場を提供したことがありますか。次の中から1つ選んでください。 《選択欄次ページにあり》

### 【回答】

回	答	肢	前回（55）		今回（51）		比較	
			前回数	前回構成比	今回数	今回構成比	数の差	構成比の差
1	提供したことがある		13	23.6%	20	39.2%	7	15.6%
2	機会があれば提供していきたい		3	5.5%	3	5.9%	0	0.4%
3	提供したいが、むずかしい		21	38.2%	11	21.6%	-10	-16.6%
4	提供したことがない。今後もできない		9	16.4%	13	21.3%	4	4.9%

【特徴】 農業体験の場に農地を提供しているとの回答が増加している。

<今後の農業施策についてお尋ねします>

問 28 今後の農業施策で重視してほしいものはどのようなことですか。次の中からいくつでも選んでください。

回	答	肢	前回 (55)		今回 (51)		比較	
			前回数	前回構成比	今回数	今回構成比	数の差	構成比の差
1	有機農業・低農薬農業の推進		26	28.6%	23	12.2%	-3	-16.4%
2	環境に配慮した農業資器材等の補助の充実		23	25.3%	19	10.1%	-4	-15.2%
3	地域内資源の堆肥化の補助		14	15.4%	9	4.8%	-5	-10.6%
4	産地化・ブランド化の推進		6	6.6%	10	5.3%	4	-1.3%
5	農協や市による共同直売所の増設		24	26.4%	16	8.5%	-8	-17.9%
6	農家の共同直売所の開設		6	6.6%	2	1.1%	-4	-5.5%
7	農業用施設の補助の充実		13	14.3%	8	4.2%	-5	-10.1%
8	農業用機械の補助の充実		22	24.2%	12	6.4%	-10	-17.8%
9	スーパー・小売店に地場産野菜のコーナーを設置		5	5.5%	4	2.1%	-1	-3.4%
10	Uターン就農者の生活安定援助		1	1.1%	0	0%	-1	-1.1%
11	Uターン就農者の技術習得の支援		2	2.2%	3	1.6%	1	-0.6%
12	農業後継者の育成対策		7	7.7%	8	4.2%	1	-3.5%
13	後継者自立のための事業資金融資		2	2.2%	1	0.5%	-1	-1.7%
14	市民農園の増設農業体験農園開設の支援		1	1.1%	2	1.1%		
15	学校農園の充実		1	1.1%	1	0.5%	0	-0.6%
16	観光農園・畝売り等の支援		0	0%	1	0.5%	1	0.5%
17	市民の農作業参加の受け入れ支援		1	1.1%	3	1.6%	2	0.5%
18	武蔵野市農業のPR・イベントの充実		11	12.1%	15	7.9%	4	-4.2%
19	空き缶。ごみの投棄防止		31	34.1%	19	10.1%	-12	-24.0%
20	市民の理解を深めるための懇談会開催		3	3.3%	4	2.1%	1	-1.2%
21	生産緑地買取り請求への積極的な対応		7	7.7%	9	4.8%	2	-2.9%
22	農業用施設用地の農地並み課税		15	16.5%	18	9.5%	3	-7.0%
23	その他		0	0%	2	1.1%	2	1.1%

【特徴】 前回よりも、産地化・ブランド化及び武蔵野市農業のPR・イベントの充実を望む回答数が増えている。

## 市民意識調査集計結果及び前回との比較

平成17年に実施したアンケート調査と同様の調査を行い市民の意識の変化を確認した。さらに、市民農園、農業ふれあい公園利用者にも一般市民と同じアンケートを行い、意識、要望等の相違を調査した。

### 農業に関する市民意識調査の結果

#### ● 調査対象等（一般市民）

	前回	今回	比較
住民基本台帳より無作為抽出	1,500人	1,500人	
調査年月	平成17年12月	平成22年6月	
回収件数	530	558	+28
回収率	35.3%	37.2%	+1.9%

#### ● 調査対象等（市民農園等利用者）

	前回	今回	比較
市民農園等利用者より無作為抽出		100人	
調査年月		平成22年6月	
回収件数		67	
回収率		67%	

#### 《記入上のお願い》

設問ごとにあてはまる番号を1つ、又は複数回答を指定している場合は、その数だけ選んで番号に○印をつけてください。

### <武蔵野市農業とその役割・期待について>

問1 はじめに、武蔵野市の農業についてお聞きします。以下に示す農産物は、現在武蔵野市で生産されているものです。その中で、あなたが、市内で生産されていることを知っているものすべてを選んで○印をつけてください。

#### 【回答】

	前回（530）		今回一般（558）		比較		市民農園利用者（67）		
	前回数	前回認知率	今回数	今回認知率	数の差	認知率差	認知数	認知率	対一般との差
1 うど	203	38.3%	298	53.4%	95	15.1%	45	67.2%	13.8%
2 キャベツ	358	67.5%	356	63.8%	-2	-3.7%	59	88.1%	24.3%
3 ブロッコリー	296	55.8%	324	58.1%	28	2.2%	57	85.1%	27.0%
4 カリフラワー	203	38.3%	205	36.7%	2	-1.6%	34	50.7%	14.0%
5 大根	394	74.3%	407	72.9%	13	-1.4%	61	91.0%	18.1%
6 にんじん	310	58.5%	365	65.4%	55	6.9%	54	80.6%	15.2%
7 きゅうり	266	50.2%	403	72.2%	137	22.0%	64	95.5%	23.3%
8 なす	255	48.1%	390	69.9%	135	21.8%	64	95.5%	25.6%
9 トマト	290	54.7%	391	70.1%	101	15.4%	63	94.0%	24.0%
10 とうもろこし	242	45.7%	330	59.1%	88	13.5%	59	88.1%	28.9%
11 枝豆	197	37.2%	300	53.8%	103	16.6%	60	89.6%	35.8%

12	じゃがいも	251	47.4%	332	59.5%	81	12.1%	55	82.1%	22.6%
13	さつまいも	225	42.5%	259	46.4%	34	4.0%	48	71.6%	25.2%
14	里芋・八つ頭	243	45.8%	213	38.2%	-30	-7.7%	38	56.7%	18.5%
15	京芋	35	6.6%	37	6.6%	2	0.0%	8	11.9%	5.3%
16	長ねぎ	315	59.4%	336	60.2%	21	0.8%	55	82.1%	21.9%
17	たまねぎ	183	34.5%	256	45.9%	73	11.3%	48	71.6%	25.8%
18	かぶ	202	38.1%	274	49.1%	72	11.0%	47	70.1%	21.0%
19	ごぼう	169	31.9%	162	29.0%	-7	-2.9%	28	41.8%	12.8%
20	いんげん	161	30.4%	237	42.5%	76	12.1%	47	70.1%	27.7%
21	そら豆	66	12.5%	165	29.6%	99	17.1%	38	56.7%	27.1%
22	スナックエンドウ	90	17.0%	153	27.4%	63	10.4%	37	55.2%	27.8%
23	ニガウリ	111	20.9%	147	26.3%	36	5.4%	34	50.7%	24.4%
24	ハヤトウリ	34	6.4%	48	8.6%	14	2.2%	11	16.4%	7.8%
25	ズッキーニ	54	10.2%	96	17.2%	42	7.0%	22	32.8%	15.6%
26	シシトウ	139	26.2%	192	34.4%	53	8.2%	49	73.1%	38.7%
27	ピーマン	237	44.7%	283	50.7%	46	6.0%	57	85.1%	34.4%
28	パプリカ	57	10.8%	82	14.7%	25	3.9%	19	28.4%	13.7%
29	アスパラガス	70	13.2%	87	15.6%	17	2.4%	21	31.3%	15.8%
30	オクラ	130	24.5%	166	29.7%	36	5.2%	42	62.7%	32.9%
31	ショウガ	93	17.5%	127	22.8%	34	5.2%	29	43.3%	20.5%
32	ミョウガ	152	28.7%	188	33.7%	36	5.0%	34	50.7%	17.1%
33	たけのこ	117	22.1%	173	31.0%	56	8.9%	30	44.8%	13.8%
34	かぼちゃ	182	34.3%	224	40.1%	42	5.8%	47	70.1%	30.0%
35	とうがらし	132	24.9%	146	26.2%	14	1.3%	35	52.2%	26.1%
36	ウコン	16	3.0%	22	3.9%	6	0.9%	8	11.9%	8.0%
37	ほうれん草	228	43.0%	358	64.2%	130	21.1%	67	100.0%	35.8%
38	小松菜	280	52.8%	327	58.6%	47	5.8%	58	86.6%	28.0%
39	春菊	171	32.3%	237	42.5%	66	10.2%	49	73.1%	30.7%
40	白菜	276	52.1%	292	52.3%	16	0.3%	54	80.6%	28.3%
41	ちんげん菜	116	21.9%	170	30.5%	54	8.6%	38	56.7%	26.3%
42	水菜	108	20.4%	158	28.3%	50	7.9%	35	52.2%	23.9%
43	かき菜	49	9.2%	73	13.1%	24	3.8%	14	20.9%	7.8%
44	レタス	168	31.7%	203	36.4%	35	4.7%	45	67.2%	30.8%
45	ニラ	141	26.6%	193	34.6%	52	8.0%	36	53.7%	19.1%
46	大葉(しそ)	143	27.0%	236	42.3%	93	15.3%	38	56.7%	14.4%
47	モロヘイヤ	131	24.7%	118	21.1%	-13	-3.6%	28	41.8%	20.6%
48	くるみ	26	4.9%	20	3.6%	-6	-1.3%	5	7.5%	3.9%
49	かりん	69	13.0%	72	12.9%	3	-0.1%	10	14.9%	2.0%
50	ふき	121	22.8%	166	29.7%	45	6.9%	25	37.3%	7.6%
51	ぎんなん	208	39.2%	205	36.7%	-3	-2.5%	42	62.7%	25.9%
52	冬瓜	75	14.2%	102	18.3%	27	4.1%	18	26.9%	8.6%
53	梅	159	30.0%	232	41.6%	73	11.6%	29	43.3%	1.7%
54	栗	173	32.6%	232	41.6%	59	8.9%	49	73.1%	31.6%
55	スモモ	44	8.3%	51	9.1%	7	0.8%	7	10.4%	1.3%
56	柿	266	50.2%	242	43.4%	-24	-6.8%	35	52.2%	8.9%

57 梨	164	30.9%	198	35.5%	34	4.5%	32	47.8%	12.3%
58 りんご	106	20.0%	43	7.7%	-63	-12.3%	4	6.0%	-1.7%
59 ブドウ	146	27.5%	183	32.8%	37	5.2%	25	37.3%	4.5%
60 すいか	88	16.6%	140	25.1%	52	8.5%	34	50.7%	25.7%
61 メロン	42	7.9%	55	9.9%	13	1.9%	15	22.4%	12.5%
62 イチゴ	97	18.3%	132	23.7%	35	5.4%	22	32.8%	9.2%
63 キウイフルーツ	194	36.6%	218	39.1%	24	2.5%	34	50.7%	11.7%
64 ブルーベリー	49	9.2%	198	35.5%	149	26.2%	46	68.7%	33.2%
65 ゆず	135	25.5%	139	24.9%	4	-0.6%	30	44.8%	19.9%
66 みかん	86	16.2%	67	12.0%	-19	-4.2%	20	29.9%	17.8%
67 レモン		0.0%	46	8.2%	46	8.2%	5	7.5%	-0.8%
68 イチジク	69	13.0%	94	16.8%	25	3.8%	14	20.9%	4.0%
69 切り花	222	41.9%	269	48.2%	47	6.3%	43	64.2%	16.0%
70 鉢花		0.0%	238	42.7%	238	42.7%	37	55.2%	12.6%
71 植木・苗木	246	46.4%	259	46.4%	13	0.0%	39	58.2%	11.8%
72 他	7	1.3%	12	2.2%	5	0.8%	0	0.0%	-2.2%

#### 【特徴】

- ・全体的には前回よりも認知度が伸びている物が多く、減少したものは少数である。
- ・大根、きゅうり、なす、トマトなど一般的に作られている作物の認知度が前回より大きく伸び広く認知されている。
- ・ウドの認知度が伸びている。
- ・柿、りんごなどの認知度が下がったが、ブルーベリーは大きく伸びた。
- ・市民農園利用者は、一般より認知度が高く、とりわけ枝豆、シントウ、ピーマン、オクラなどは一般より30ポイント以上認知度が高い。
- ・しかし市民農園利用者でもくるみ、スモモ、りんご、レモンなどでは一般と大差なく同様に低い。

問2 武蔵野市は都市化が進み、市内に残る農地は約33haで市の面積の約3%です。市内の農地は、地域の消費者に新鮮で安全な農作物を供給するという基本的役割のほか、都市に残された農地は心安らぐ景観であり、農業体験の場としての教育的役割。さらにはヒートアイランド現象を緩和する緑地の機能や、災害時には避難場所となるなど、多面的機能を持っています。しかし、一方では、都市の中に農業・農地は必要ないのではないかとの議論もあります。

そのような中、市では、農地保全を推進する立場から、「生産緑地(\*注)」の指定を行い、武蔵野市で「生産緑地」に指定されているのは、農地全体の約90%です。このことについて

て、どう思いますか。

【回答】

回 答 肢	前回（530）		今回一般（558）		比 較		市民農園利用者（67）		
	前回数	前回構成比	今回数	今回構成比	数の差	構成比差	回答数	構成比	対一般との差
1 今ある農地は「生産緑地」も「宅地化農地」もできるだけ残してほしい	229	43.2%	325	58.2%	96	15.0%	40	59.7%	1.5%
2 せめて現在の「生産緑地」くらいは残してほしい	212	40.0%	177	31.7%	-35	-8.3%	23	34.3%	2.6%
3 農地はだんだん減っていても仕方ないと思う	40	7.5%	28	5.0%	-12	-2.5%	3	4.5%	-0.5%
4 農地を公園・緑地など公共的な場として活用すべきである	22	4.2%	27	4.8%	5	0.7%	2	3.0%	-1.9%
5 農地を住宅地に活用すべきである	6	1.1%	8	1.4%	2	0.3%	0	0.0%	-1.4%
6 その他	7	1.3%	14	2.5%	7	1.2%	0	0.0%	-2.5%

【特 徴】

- ・今回は前回と比べ、1「生産緑地も宅地化農地も両方残してほしい」という回答が15ポイント増加した。
- ・市民農園利用者も同様な傾向である。

問3 農地を身近に感じられますか。1つ選んでください。

【回答】

回 答 肢	前回（530）		今回一般（558）		比 較		市民農園利用者（67）		
	前回数	前回構成比	今回数	今回構成比	数の差	構成比差	回答数	構成比	対一般との差
1 感じる	172	32.5%	238	42.7%	66	10.2%	43	64.2%	21.5%
2 少しは感じている	240	45.3%	191	34.2%	-49	-11.1%	19	28.4%	-5.9%
3 感じていない	103	19.4%	116	20.8%	13	1.4%	4	6.0%	-14.8%
4 その他	2	0.4%	4	0.7%	2	0.3%	0	0.0%	-0.7%
5 無回答	13	2.5%	9	1.6%	-4	-0.8%		0.0%	-1.6%

【特 徴】

- ・1「感じる」、2「少しは感じる」を併せるとほぼ8割で前回と変化はない。



・市民農園利用者では、一般に比べより強く身近に感じている。

問4 あなたのまわりの農業・農地について感じていることを3つ選んでください。

【回答】

回 答 肢	前回 (530)		今回一般 (558)		比 較		市民農園利用者 (67)		
	前回数	前回構成比	今回数	今回構成比	数の差	構成比差	回答数	構成比	対一般との差
1 新鮮な野菜・果樹を供給している	350	66.0%	393	70.4%	43	4.4%	54	80.6%	10.2%
2 季節を感じることができる	394	74.3%	419	75.1%	25	0.7%	56	83.6%	8.5%
3 緑地空間や災害発生時のオープンスペースとして役立っている	246	46.4%	239	42.8%	-7	-3.6%	26	38.8%	-4.0%
4 子どもの農業体験のために役立っている	164	30.9%	164	29.4%	0	-1.6%	32	47.8%	18.4%
5 農業者と話をしたことがある		0.0%	74	13.3%	74	13.3%	14	20.9%	7.6%
6 季節によって土ぼこりなどで困る	56	10.6%	53	9.5%	-3	-1.1%	3	4.5%	-5.0%
7 農薬散布が心配である	84	15.8%	65	11.6%	-19	-4.2%	3	4.5%	-7.2%
8 臭いや、農機具の騒音などで困る	6	1.1%	11	2.0%	5	0.8%	0	0.0%	-2.0%
9 あまり関心がない	56	10.6%	44	7.9%	-12	-2.7%	2	3.0%	-4.9%
10 その他	34	6.4%	40	7.2%	6	0.8%	4	6.0%	-1.2%

【特 徴】

- ・ 1～4の肯定的意見は前回同様高い。
- ・ 6～9の否定的項目は減っているが、8の「臭いや、農機具の騒音などで困る」が若干ではあるが増加している。
- ・ 今回初項目の農業者との対話は13.3%が経験している。
- ・ 市民農園利用者は、一般よりさらに肯定的意見が高いが、とりわけ4の「子どもの農業体験のために役立っている」で大きく差が生じている。

問5 あなたは将来の武蔵野市の農業についてどんなことを期待しますか。2つ選んでください。

【回答】

回 答 肢	前回 (530)		今回一般 (558)		比 較		市民農園利用者 (67)		
	前回数	前回構成比	今回数	今回構成比	数の差	構成比差	回答数	構成比	対一般構成比差
1 新鮮で安全な野菜・果樹の供給地であってほしい	359	67.7%	409	73.3%	50	5.6%	42	62.7%	-10.6%
2 環境に配慮した農業を行ってほしい	145	27.4%	123	22.0%	-22	-5.3%	10	14.9%	-7.1%
3 地域に潤いのある環境をつくり出すための農地であってほしい	239	45.1%	259	46.4%	20	1.3%	34	50.7%	4.3%
4 市民が見学・体験できるような機会がほしい	50	9.4%	60	10.8%	10	1.3%	12	17.9%	7.2%
5 新鮮で安全な野菜・果樹の学校給食での活用を増やしてほしい	93	17.5%	135	24.2%	42	6.6%	15	22.4%	-1.8%
6 子どもの農業体験などができる農業であってほしい	113	21.3%	109	19.5%	-4	-1.8%	19	28.4%	8.8%
7 その他	11	2.1%	12	2.2%	1	0.1%	2	3.0%	0.8%

【特 徴】

- ・ほぼ前回と同様の結果であるが、5「新鮮で安全な野菜・果樹の学校給食での活用を増やしてほしい」が6.6%の増加となった。
- ・市民農園利用者では、一般に比較して野菜の供給元と見るより、体験型農業を希望する意見が多い。

<農業体験・余暇と農作業>

問6 あなたや、あなたのご家族は農業体験をしたことがありますか。あてはまるものをいくつでも選んでください。

【回答】

回 答 肢	前回 (530)		今回一般 (558)		比 較		市民農園利用者 (67)		
	前回数	前回構成比	今回数	今回構成比	数の差	構成比差	回答数	構成比	対一般構成比差
1 学校・幼稚園・保育園の農業体験学習に参加したことがある	172	32.5%	237	42.5%	65	10.0%	16	23.9%	-18.6%
2 市民農園・農業公園等で農業体験をしたことがある	53	10.0%	85	15.2%	32	5.2%	64	95.5%	80.3%
3 地域の農家で農業体験をしたことがある	25	4.7%	45	8.1%	20	3.3%	6	9.0%	0.9%
4 農家の農作業に協力したことがある	30	5.7%	81	14.5%	51	8.9%	10	14.9%	0.4%
5 産直など、農産物を送ってくれる農家で農作業の体験をしたことがある	15	2.8%	35	6.3%	20	3.4%	6	9.0%	2.7%
6 農業体験をしたことがない	182	34.3%	162	29.0%	-20	-5.3%	4	6.0%	-23.1%
7 その他	45	8.5%	68	12.2%	23	3.7%	4	6.0%	-6.2%

【特 徴】

- ・前回と比べ農業体験をした者が着実に増加している。
- ・4の「農家の農作業に協力したことがある」が大きく増加している。
- ・市民農園利用者は当然ながら市民農園体験が多いが、逆に学校等での経験者が一般よりも大きく少ない。

問7 子どもと自然のふれあいなど、農業には教育的効果もあるといわれていますが、子どもたちの農業体験にどんなことを期待しますか。2つ選んでください。

【回答】

回 答 肢	前回 (530)		今回一般(558)		比 較		市民農園利用者(67)		
	前 回 数	前回構成比	今 回 数	今回構成比	数 の 差	構 成 比 差	回 答 数	構 成 比	対一般構成比差
1 自然と触れ合う機会ができる	202	38.1%	257	46.1%	55	7.9%	33	49.3%	3.2%
2 生き物を育てる喜び・楽しみを知ってほしい	277	52.3%	283	50.7%	6	-1.5%	41	61.2%	10.5%
3 食べ物を作る過程やその大変さを知ってほしい	378	71.3%	425	76.2%	47	4.8%	48	71.6%	-4.5%
4 生き物を大切に作る心を持ってほしい	121	22.8%	133	23.8%	12	1.0%	12	17.9%	-5.9%
5 あまり期待しない	8	1.5%	5	0.9%	-3	-0.6%	0	0.0%	-0.9%
6 その他	10	1.9%	9	1.6%	-1	-0.3%	1	1.5%	-0.1%

【特 徴】

- ・ほぼ前回同様の結果であるが、1「自然と触れ合う機会ができる」が増加している。
- ・市民農園利用者では、2「生き物を育てる喜び・楽しみを知ってほしい」が一般に比べ10.5ポイント多い。

問8 【一般市民】武蔵野市では現在8か所の市民農園と農業公園が1か所あります。その利用についてはどう思いますか。1つ選んでください。

【市民農園利用者】武蔵野市の市民農園・農業ふれあい公園の利用状況等についてお尋ねします。あてはまるものに○をしてください。

【回答】

回 答 肢	前回（530）		今回一般（558）		比 較		市民農園利用者(67)	
	前回数	前回構成比	今回数	今回構成比	数の差	構成比差	回答数	構成比
1利用したことがある	46	8.7%	56	10.0%	10	1.4%		
2今後利用したい	176	33.2%	230	41.2%	54	8.0%		
3利用したいとは思わない	192	36.2%	179	32.1%	-13	-4.1%		
4その他	102	19.2%	87	15.6%	-15	-3.7%		
1 利用年数は通算して2年未満である							35	52.2%
2 利用年数は通算して2年以上である							26	38.8%
3 できれば今後も利用したい							56	83.6%
4 今後は利用したいとは思わない							0	0.0%

【特 徴】

\*市民農園利用者には別の質問項目とした。

- ・市民農園利用の経験者は若干ではあるが、増加している。
- ・2「今後利用したい」は前回と比べ、8.0ポイント増加している。
- ・市民農園利用者の3「今後も利用したい」は83.6%であり、4「利用したいとは思わない」は0人であり、評価が高い。

問9 農業に関心を持つ人に農作業を手伝ってもらう「農業ボランティア」の制度が各地にあります。こうしたボランティアに参加することについてどう思いますか。次の中から1つ選んでください。

【回答】

回 答 肢	前回（530）		今回一般（558）		比 較		市民農園利用者(67)		
	前回数	前回構成比	今回数	今回構成比	数の差	構成比差	回答数	構成比	対一般構成比差

1 参加してみたい	92	17.4%	118	21.1%	26	3.8%	24	35.8%	14.7%
2 参加したくない	96	18.1%	101	18.1%	5	0.0%	4	6.0%	-12.1%
3 関心はあるが参加する時間がない	280	52.8%	277	49.6%	-3	-3.2%	35	52.2%	2.6%
4 その他	46	8.7%	54	9.7%	8	1.0%	3	4.5%	-5.2%

**【特 徴】**

- ・前回とほぼ同様であるが、1「参加してみたい」が増えている。
- ・市民農園利用者では、参加の意向がさらに高い。

**<生ごみの処理について>**

問 10 資源化にもつながる生ごみの処理について、現在あなたはどのように処理していますか。  
1つ選んでください。

**【回答】**

回 答 肢	前回 (530)		今回一般 (558)		比 較		市民農園利用者 (67)		
	前回数	前回構成比	今回数	今回構成比	数の差	構成比差	回答数	構成比	前一般構成比差
1 自分で肥料として活用している	12	2.3%	11	2.0%	-1	-0.3%	7	10.4%	8.5%
2 自宅の庭で穴を掘り、処理している	21	4.0%	13	2.3%	-8	-1.6%	1	1.5%	-0.8%
3 市のごみ収集に出している	465	87.7%	503	90.1%	38	2.4%	56	83.6%	-6.6%
4 その他	27	5.1%	27	4.8%	0	-0.3%	3	4.5%	-0.4%
	5	0.9%	4	0.7%	-1	-0.2%	0	0.0%	-0.7%

**【特 徴】**

- ・前回とほぼ同様であり、90%の方はごみ収集に出している。
- ・市民農園利用者では人数としてはわずかではあるが、1「自分で肥料として活用している」が一般よりも多い。

<市内産野菜の消費について>

問 11 あなたは野菜や果物をどこで購入していますか。1番多い購入先に◎、2番目に多い購入先に○をつけてください。

【回答】

		前 回 ( 5 3 0 )		今回一般(558)		比 較		市民農園利用者(67)			
回	答 肢	前回数	前回構成比	今回数	今回構成比	数の差	構成比差	回答数	構成比	対一般構成比差	
(1番目に多い◎)	1	商店スーパー	283	53.4%	418	74.9%	135	21.5%	49	73.1%	-1.8%
	2	直 売 所	71	13.4%	19	3.4%	-52	-10.0%	2	3.0%	-0.4%
	3	J A	21	4.0%	7	1.3%	-14	-2.7%	5	7.5%	6.2%
	4	生 協	53	10.0%	48	8.6%	-5	-1.4%	6	9.0%	0.4%
	5	麦わら帽子	18	3.4%	9	1.6%	-9	-1.8%	2	3.0%	1.4%
	6	全 農	7	1.3%	10	1.8%	3	0.5%	0	0.0%	-1.8%
	7	他	5	0.9%	5	0.9%	0	0.0%	2	3.0%	2.1%
		無 回 答	72	13.6%	42	7.5%	-30	-6.1%	1	1.5%	-6.0%
(2番目に多い○)	1	商店スーパー	199	37.5%	83	14.9%	-116	-22.7%	6	9.0%	-5.9%
	2	直 売 所	89	16.8%	128	22.9%	39	6.1%	27	40.3%	17.4%
	3	J A	32	6.0%	54	9.7%	22	3.6%	7	10.4%	0.8%
	4	生 協	76	14.3%	76	13.6%	0	-0.7%	11	16.4%	2.8%
	5	麦わら帽子	19	3.6%	39	7.0%	20	3.4%	3	4.5%	-2.5%
	6	全 農	21	4.0%	34	6.1%	13	2.1%	5	7.5%	1.4%
	7	他	15	2.8%	25	4.5%	10	1.7%	2	3.0%	-1.5%
		無 回 答	79	14.9%	119	21.3%	40	6.4%	6	9.0%	-12.4%
(1番+2番目)	1	商店スーパー	482	86.4%	501	89.8%	19	3.4%	55	82.1%	-7.7%
	2	直 売 所	160	28.7%	147	26.3%	-13	-2.3%	29	43.3%	16.9%
	3	J A	53	9.5%	61	10.9%	8	1.4%	12	17.9%	7.0%
	4	生 協	129	23.1%	124	22.2%	-5	-0.9%	17	25.4%	3.2%
	5	麦わら帽子	37	6.6%	48	8.6%	11	2.0%	5	7.5%	-1.1%
	6	全 農	28	5.0%	44	7.9%	16	2.9%	5	7.5%	-0.4%
	7	他	20	3.6%	30	5.4%	10	1.8%	4	6.0%	0.6%

	無回答	151	27.1%	161	28.9%	10	1.8%	7	10.4%	-18.4%
--	-----	-----	-------	-----	-------	----	------	---	-------	--------

【特徴】

- ・「1番目に多い」では、1「商店・スーパー」が圧倒的に多い。
- ・「1番目に多い」と「2番目に多い」を併せると2「直売所」が健闘しているが前回より微減している。
- ・市民農園利用者では、「商店・スーパー」に次ぐ2番目に利用するものとして、2「直売所」が一般に比べ17.4ポイントと格段に高く、1位の「商店・スーパー」の割合がその分少なくなっている。

問12 あなたは野菜や果物を購入するとき何を基準にしていますか。2つ選んでください。

【回答】

回答肢	前回(530)		今回一般(558)		比較		市民農園利用者(67)		
	前回数	前回構成比	今回数	今回構成比	数の差	構成比差	回答数	構成比	対一般構成比差
1 安価のものを選ぶ	82	15.5%	182	32.6%	100	17.1%	15	22.4%	-10.2%
2 色や形のよいものを選ぶ	37	7.0%	89	15.9%	52	9.0%	11	16.4%	0.5%
3 有機栽培農法や無農薬栽培法で生産された表示のあるものを選ぶ	180	34.0%	163	29.2%	-17	-4.8%	22	32.8%	3.6%
4 産地を確認して選ぶ		0.0%	262	47.0%	262	47.0%	34	50.7%	3.8%
5 量や大きさで選ぶ	17	3.2%	52	9.3%	35	6.1%	3	4.5%	-4.8%
6 新鮮で味がよく栄養価が高そうなものを選ぶ	170	32.1%	285	51.1%	115	19.0%	34	50.7%	-0.3%
7 特に基準を持っているわけではない	12	2.3%	43	7.7%	31	5.4%	3	4.5%	-3.2%
8 その他	32	6.0%	8	1.4%	-24	-4.6%	6	9.0%	7.5%

【特徴】

- ・前回の調査から4「産地を確認して選ぶ」の選択肢を増やしたため、厳密な前回との対比はできない。
- ・前回と比べ1「安価なものを選ぶ」が17.1%と大幅に増加した。
- ・しかし、6「新鮮で味がよく栄養価が高そうなものを選ぶ」も19.0%と大幅に増加した。
- ・新規選択肢の4「産地を確認して選ぶ」は、3の「有機栽培農法や無農薬栽培法で生産された表示のあるものを選ぶ」と重なるところがあるが、47.0%と高い割合で選ばれた。



- ・市民農園利用者は、一般と比べ1「安価なものを選ぶ」の割合が大きく減少し、3の「有機栽培農法や無農薬栽培法で生産された表示のあるものを選ぶ」、4「産地を確認して選ぶ」が多い。

問13 あなたは武蔵野市内で生産された農産物を購入したいと思いますか。1つ選んでください

【回答】

回 答 肢	前回(530)		今回一般(558)		比 較		市民農園利用者(67)		
	前回数	前回構成比	今回数	今回構成比	数の差	構成比差	回答数	構成比	対一般構成比差
1 ぜひ購入したい	154	29.1%	247	44.3%	93	15.2%	35	52.2%	8.0%
2 機会があれば購入したい	324	61.1%	269	48.2%	-55	-12.9%	23	34.3%	-13.9%
3 関心がない	29	5.5%	19	3.4%	-10	-2.1%	2	3.0%	-0.4%
4 その他	18	3.4%	12	2.2%	-6	-1.2%	6	9.0%	6.8%

【特 徴】

- ・1「ぜひ購入したい」、2「機会があれば購入したい」を併せると前回同様90%を超えるが、「ぜひ購入したい」が大きく伸びている。
- ・市民農園利用者では、さらに「ぜひ購入したい」が大きな割合を占める。

問14 武蔵野市内で生産された農産物を購入しやすくするためには、どんなことが必要ですか。1つ選んでください。

【回答】

回 答 肢	前回(530)		今回一般(558)		比 較		市民農園利用者(67)		
	前回数	前回構成比	今回数	今回構成比	数の差	構成比差	回答数	構成比	対一般構成比差
1 市内の八百屋さんや地元商店などで武蔵野市内産のものを扱うようにする	92	17.4%	65	11.6%	-27	-5.7%	9	13.4%	1.8%
2 市内のスーパーなどの量販店に武蔵野市内産のコーナーを設置する	314	59.2%	370	66.3%	56	7.1%	40	59.7%	-6.6%
3 農家の直売所を増やす	56	10.6%	53	9.5%	-3	-1.1%	6	9.0%	-0.5%
4 朝市・夕市などを定期的開催する	50	9.4%	58	10.4%	8	1.0%	11	16.4%	6.0%

5 その他	8	1.5%	10	1.8%	2	0.3%	2	3.0%	1.2%
-------	---	------	----	------	---	------	---	------	------

**【特徴】**

- ・地元商店・スーパーの利用が多いことを反映して、2「市内のスーパーなどの量販店に武蔵野市内産のコーナーを設置する」、1「市内の八百屋さんや地元商店などで武蔵野市内産のものを扱うようにする」が多く、合計すると前回同様である。
- ・市民農園利用者では、4「朝市・夕市などを定期的に開催する」意見が一般に比べ高い。

問 15 武蔵野市内には 40 を超える農家の直売所がありますが、あなたは利用したことがありますか。1つ選んでください。

**【回答】**

回 答 肢	前回 (530)		今回一般 (558)		比 較		市民農園利用者 (67)		
	前回数	前回構成比	今回数	今回構成比	数の差	構成比差	回答数	構成比	対一般構成比差
1 よく利用している	76	14.3%	82	14.7%	6	0.4%	17	25.4%	10.7%
2 たまに利用している	244	46.0%	262	47.0%	18	0.9%	42	62.7%	15.7%
3 利用したことがない	143	27.0%	150	26.9%	7	-0.1%	6	9.0%	-17.9%
4 直売所があることを知らなかった	61	11.5%	62	11.1%	1	-0.4%	2	3.0%	-8.1%

**【特徴】**

- ・ほぼ前回同様の結果である。3「利用したことがない」、4「直売所があることを知らなかった」が合計 38% であり、利用度認知度が低い。
- ・市民農園利用者は、一般に比べ利用が高いと逆に「利用したことがない」、「直売所があることを知らなかった」の割合は格段に低い。

問 16 農産物の直売所について感じていることを、いくつでも選んでください。

**【回答】**

回 答 肢	前回 (530)		今回一般 (558)		比 較		市民農園利用者 (67)		
	前回数	前回構成比	今回数	今回構成比	数の差	構成比差	回答数	構成比	対一般構成比差
1 新鮮である	386	72.8%	426	76.3%	40	3.5%	56	83.6%	7.2%
2 価格が安い	212	40.0%	232	41.6%	20	1.6%	34	50.7%	9.2%
3 農家との結びつきがある	129	24.3%	119	21.3%	-10	-3.0%	16	23.9%	2.6%
4 安全だと思う	125	23.6%	167	29.9%	42	6.3%	22	32.8%	2.9%
5 おいしい	129	24.3%	168	30.1%	39	5.8%	24	35.8%	5.7%
6 生産(者)が目に見えてよい	182	34.3%	197	35.3%	15	1.0%	27	40.3%	5.0%
7 品数、量が少ない	138	26.0%	146	26.2%	8	0.1%	13	19.4%	-6.8%
8 開いている日が少ない	93	17.5%	98	17.6%	5	0.0%	10	14.9%	-2.6%

9 空いている時間が短い	98	18.5%	110	19.7%	12	1.2%	13	19.4%	-0.3%
10 品質が良くない	15	2.8%	8	1.4%	-7	-1.4%	1	1.5%	0.1%
11 価格が高い	31	5.8%	22	3.9%	-9	-1.9%	4	6.0%	2.0%
12 その他	41	7.7%	50	9.0%	9	1.2%	3	4.5%	-4.5%

【特徴】

- ・回答肢1～6の直売所に対する肯定的評価は前回とほぼ同様であるが、4「安全だと思う」、5「おいしい」は5～6%伸びているが、3「農家との結びつきがある」が3%減少している。
- ・市民農園利用者の肯定的評価は、一般よりさらに高く、反面否定的評価は価格面を除き低い。

問 17 武蔵野市には直売施設のJA新鮮館およびアンテナショップ麦わら帽子がありますが、あなたは利用したことがありますか。1つ選んでください。

【回答】

回 答 肢	前回(530)		今回一般(558)		比 較		市民農園利用者(67)		
	前回数	前回構成比	今回数	今回構成比	数の差	構成比差	回答数	構成比	対一般構成比差
1 週に3回以上利用している	12	2.3%	8	1.4%	-4	-0.8%	3	4.5%	3.0%
2 週に1回ぐらい利用している	35	6.6%	47	8.4%	12	1.8%	10	14.9%	6.5%
3 たまに利用している	179	33.8%	227	40.7%	48	6.9%	37	55.2%	14.5%
4 利用したことがない	198	37.4%	173	31.0%	-25	-6.4%	13	19.4%	-11.6%
5 JA新鮮館等があることを知らなかった	98	18.5%	97	17.4%	-1	-1.1%	4	6.0%	-11.4%

【特徴】

- ・1「週に3回以上利用している」は少数で、市民農園利用者でも若干多いが少数である。
- ・3「たまに利用する」がやや伸びており、逆に4「利用したことがない」が減少している。
- ・市民農園利用者は、一般に比べ利用するという回答が多い。

問 18 JA新鮮館およびアンテナショップ麦わら帽子について感じていることを、いくつでも選んでください。

【回答】

回 答 肢	前回(530)		今回一般(558)		比 較		市民農園利用者(67)		
	前回数	前回構成比	今回数	今回構成比	数の差	構成比差	回答数	構成比	対一般構成比差
1 新鮮である	198	37.4%	255	45.7%	57	8.3%	40	59.7%	14.0%
2 価格が安い	4	0.8%	72	12.9%	68	12.1%	12	17.9%	5.0%
3 農家との結びつきがある	75	14.2%	104	18.6%	29	4.5%	18	26.9%	8.2%
4 安全だと思う	92	17.4%	171	30.6%	79	13.3%	23	34.3%	3.7%

5 おいしい	45	8.5%	104	18.6%	59	10.1%	16	23.9%	5.2%
6 品数、量が少ない	65	12.3%	66	11.8%	1	-0.4%	9	13.4%	1.6%
7 開いている時が 少ない	34	6.4%	48	8.6%	14	2.2%	6	9.0%	0.4%
8 品質が良くない	5	0.9%	3	0.5%	-2	-0.4%	0	0.0%	-0.5%
9 価格が高い	11	2.1%	32	5.7%	21	3.7%	7	10.4%	4.7%
10 その他		0.0%	102	18.3%	102	18.3%	5	7.5%	-10.8%

**【特 徴】**

- ・ 1～5の肯定的評価が高い。
- ・ とりわけ2「価格が安い」が前回0.8%であったのに対し、今回12.9%と大きく増加した。
- ・ 同様に、4「安全だと思う」も前回17.4%から30.6%へ増加した。
- ・ 否定的評価では6「品数、量が少ない」が前回より幾分減少したとはいえ、11.8%があげている。
- ・ 同様に7「開いている時が少ない」も前回より2.2ポイント増加した。
- ・ 市民農園利用者では、一般より肯定的評価が高いが、とりわけ1「新鮮である」の評価が一般より14%高い。

**<都市農業問題への対応>**

問 19 都市農業をとりまく環境は年々厳しくなっていますが、農業を守り育てていくために何が必要とご思いますか。2つ選んでください。

**【回答】**

回 答 肢	前回 (530)		今回一般 (558)		比 較		市民農園利用者 (67)		
	前回数	前回構成比	今回数	今回構成比	数の差	構成比差	回答数	構成比	対一般構成比差
1 市民が農作業に参加できる体制づくり	43	8.1%	52	9.3%	9	1.2%	16	23.9%	14.6%
2 武蔵野市でとれた野菜が手に入る流通システム	361	68.1%	410	73.5%	49	5.4%	38	56.7%	-16.8%
3 武蔵野市の農業に関する情報の提供	135	25.5%	103	18.5%	-32	-7.0%	6	9.0%	-9.5%
4 農業環境を活かしたまちづくり	104	19.6%	99	17.7%	-5	-1.9%	23	34.3%	16.6%
5 農家との懇談会や市民講座などの開催	18	3.4%	11	2.0%	-7	-1.4%	2	3.0%	1.0%
6 農地を減少させないためのしくみづくり	164	30.9%	195	34.9%	31	4.0%	29	43.3%	8.3%
7 武蔵野市の農産物のPR	169	31.9%	193	34.6%	24	2.7%	17	25.4%	-9.2%

**【特 徴】**

- ・ 前回同様、2「武蔵野市でとれた野菜が手に入る流通システム」を必要と感じる方が多い。

- ・前回 25.5%あった、3「武蔵野市の農業に関する情報の提供」は今回 18.5%と 7 ポイント減少した。
- ・市民農園利用者は、一般と大きく異なる傾向を見せており、1「市民が農作業に参加できる体制づくり」が 14.6 ポイント、4「農業環境を活かしたまちづくり」が 16.6 ポイント、6「農地を減少させないためのしくみづくり」が 8.3 ポイント多く選ばれており、逆に「武蔵野市でとれた野菜が手に入る流通システム」は 16.8 ポイント、「武蔵野市の農業に関する情報の提供」は 9.5 ポイント、7「武蔵野市の農産物のPR」は 9.2 ポイント少ない選択となっている。

### <あなたご自身について>

問 20 あなたの性別はどちらですか。該当する番号に○をつけてください。

【回答】

回 答 肢	前 回 ( 5 3 0 )		今回一般 ( 5 5 8 )		比 較		市民農園利用者(67)	
	前回数	前回構成比	今回数	今回構成比	数の差	構成比差	回答数	構成比
1 男	172	32.5%	176	31.5%	4	-0.9%	43	64.2%
2 女	350	66.0%	373	66.8%	23	0.8%	23	34.3%
無回答	8	1.5%	9	1.6%	1	0.1%	1	1.5%

問21 あなたの年齢に該当する番号に○をつけてください。

【回答】

回 答 肢	前 回 ( 5 3 0 )		今回一般(558)		比 較		市民農園利用者(67)	
	前回数	前回構成比	今回数	今回構成比	数の差	構成比差	回答数	構成比
20 歳代	62	11.7%	42	7.5%	-20	-4.2%	0	0.0%
30 歳代	83	15.7%	103	18.5%	20	2.8%	11	16.4%
40 歳代	84	15.8%	102	18.3%	18	2.4%	11	16.4%
50 歳代	92	17.4%	81	14.5%	-11	-2.8%	11	16.4%
60 歳代	79	14.9%	116	20.8%	37	5.9%	25	37.3%
70 歳代以上	123	23.2%	105	18.8%	-18	-4.4%	8	11.9%
無回答	7	1.3%	9	1.6%	2	0.3%	1	1.5%

問22 あなたの職業に該当する番号に○をつけてください。

【回答】

回 答 肢	前 回 ( 5 3 0 )		今回一般 ( 5 5 8 )		比 較		市民農園利用者(67)	
	前回数	前回構成比	今回数	今回構成比	数の差	構成比差	回答数	構成比
1 会社員、公務員、会社・団体の役員	160	30.2%	180	32.3%	20	2.1%	17	25.4%
2 自営業者、自由業者(作家など)	63	11.9%	53	9.5%	-10	-2.4%	12	17.9%

3 パート・アルバイト	49	9.2%	47	8.4%	-2	-0.8%	3	4.5%
4 専業主婦	135	25.5%	177	31.7%	42	6.2%	16	23.9%
5 学生	70	13.2%	6	1.1%	-64	-12.1%	0	0.0%
6 その他		0.0%	6	1.1%	6	1.1%	17	25.4%
無回答	53	10.0%	89	15.9%	36	5.9%	2	3.0%

問23 あなたの現在のご家族の構成に該当する番号に○をつけてください。

【回答】

回 答 肢	前 回 ( 5 3 0 )		今回一般 ( 5 5 8 )		比 較		市民農園利用者(67)	
	前 回 数	前回構成比	今 回 数	今回構成比	数 の 差	構成比差	回 答 数	構 成 比
1 一人暮らし (単身世帯)	87	16.4%	104	18.6%	17	2.2%	6	9.0%
2 夫婦だけの世帯	129	24.3%	155	27.8%	26	3.4%	23	34.3%
3 親と子どもの2世代世帯	191	36.0%	211	37.8%	20	1.8%	27	40.3%
4 祖父母と親と子どもの3世代世帯	35	6.6%	36	6.5%	1	-0.1%	6	9.0%
5 その他の世帯	79	14.9%	41	7.3%	-38	-7.6%	4	6.0%
	9	1.7%	11	2.0%	2	0.3%	1	1.5%

問24 あなたは武蔵野市に何年住んでいますか。該当する番号に○をつけてください。

【回答】

回 答 肢	前 回 ( 5 3 0 )		今回一般 ( 5 5 8 )		比 較		市民農園利用者(67)	
	前 回 数	前回構成比	今 回 数	今回構成比	数 の 差	構成比差	回 答 数	構 成 比
1 だいたい10年以上	362	68.3%	353	63.3%	-9	-5.0%	50	74.6%
2 だいたい5年から10年未満	55	10.4%	70	12.5%	15	2.2%	8	11.9%
3 だいたい2年から5年未満	53	10.0%	64	11.5%	11	1.5%	7	10.4%
4 だいたい2年未満	54	10.2%	45	8.1%	-9	-2.1%	0	0.0%
無回答	6	1.1%	26	4.7%	20	3.5%	2	3.0%

問25 あなたの住まいの形態に該当する番号に○をつけてください。

【回答】

回 答 肢	前 回 ( 5 3 0 )		今回一般 ( 5 5 8 )		比 較		市民農園利用者(67)	
	前 回 数	前回構成比	今 回 数	今回構成比	数 の 差	構成比差	回 答 数	構 成 比

1 戸建て	270	50.9%	262	47.0%	-8	-4.0%	34	50.7%
2 アパート・マンション	230	43.4%	265	47.5%	35	4.1%	26	38.8%
3 その他	25	4.7%	3	0.5%	-22	-4.2%	5	7.5%
無回答	5	0.9%	28	5.0%	23	4.1%	2	3.0%

問26 あなたのお住まいはどこですか。該当する番号に○をつけてください。

【回答】

回 答 肢	前 回 ( 5 3 0 )		今 回 一 般 ( 5 5 8 )		比 較		市 民 農 園 利 用 者 ( 6 7 )	
	前 回 数	前 回 構 成 比	今 回 数	今 回 構 成 比	数 の 差	構 成 比 差	回 答 数	構 成 比
1 吉祥寺東町	48	9.1%	57	10.2%	9	1.2%	3	4.5%
2 吉祥寺南町	47	8.9%	63	11.3%	16	2.4%	6	9.0%
3 御殿山	11	2.1%	11	2.0%	0	-0.1%	4	6.0%
4 吉祥寺本町	37	7.0%	44	7.9%	7	0.9%	8	11.9%
5 吉祥寺北町	61	11.5%	50	9.0%	-11	-2.5%	6	9.0%
6 中町	34	6.4%	44	7.9%	10	1.5%	5	7.5%
7 西久保	51	9.6%	49	8.8%	-2	-0.8%	7	10.4%
8 緑町	37	7.0%	35	6.3%	-2	-0.7%	4	6.0%
9 八幡町	20	3.8%	15	2.7%	-5	-1.1%	2	3.0%
10 関前	33	6.2%	35	6.3%	2	0.0%	7	10.4%
11 境	55	10.4%	64	11.5%	9	1.1%	6	9.0%
12 境南町	62	11.7%	52	9.3%	-10	-2.4%	4	6.0%
13 桜堤	26	4.9%	18	3.2%	-8	-1.7%	3	4.5%
無回答	8	1.5%	21	3.8%	13	2.3%	2	3.0%

## 農業・農地に関する市民の自由意見

自由意見：武蔵野市の農業・農地について、日頃感じていることなどを自由に記入してください。

自由意見記入欄には次のとおりご意見が寄せられました。要約して全件を記載しています。

	アンケート回答数	意見記入数	意見記入の率
農業従事者	51	16	31.4%
一般市民	558	281	50.4%
市民農園等利用者	67	37	55.2%

### 【回答】農業従事者

- ・ 屋敷林の剪定枝、農作物の残さいの焼却費の補助等（年1～2回）。市民や子どもたちの農業への関心増進の取り組み。地域ごとの気候情報の充実。
- ・ 市民参加の農業体験。
- ・ 都市農業の経営にあたり不動産管理に真剣に取り組んでいるが相続が発生するや、相続税を納めるため一気に土地が無くなる。土地を売るには農地が先になる。都市農業はやがて皆無になる。これでよいのか。
- ・ 地域住民とのふれあい、交流を通して、農業、農地、農家が存在する環境が必要だと認識してもらうことが農業を守り育てるのに大切だと思います。
- ・ 労働力をかけている割には農業の収益性が少ないことを後継者がどのように考えるか、が問題。その保証があるとよい。相続税猶予制度が自宅の敷地にも適用されると良い。
- ・ 各直売所の宣伝（コウノトリベジタブル事業もあり）をお願いしたい。
- ・ 武蔵野市の農業のPR、イベント充実、市民との懇談会開催を希望。
- ・ 市民との交流を深め、農業を理解してもらう。
- ・ 後継者がいない農家もあるので多様な対応をお願いする。
- ・ 武蔵野市産農産物のブランド化開発。
- ・ 幼、小中学校の校外授業。（農産物の植え付け時期、収穫時期に）
- ・ 緑と農地を大切に耕作していきたい。
- ・ ボランティアの希望はあるが、収穫は手伝いたい除草作業は希望しない、など。農協の援農制度もあるが収益からすると費用がかかる。野菜販売で農薬の話が良く出る。農薬には殺菌剤と殺虫剤があるが消費者は良く分かっていないので説明が必要。殺虫剤が必要なのは根きり虫、芯食い虫、地下のほりダニ等である。殺菌剤はべと病、ウドンコ病なので使わなければ生育がだめになる。農薬の安全性と必要性をアピールして。
- ・ 市民、農業者の考え方、要望の違いを乗り越えるには歩み寄りが必要。何か共通項を生かした具体的な形を見出す必要がある。各農家で対応する市民層が違っていても良い。それぞれ相性の合うタイアップから生み出されると思う。
- ・ 地域の緑地空間として農業を保全していく方策を考える必要がある。
- ・ 後継者が体が弱いのでどうにもならない。

### 【回答】一般市民

- ・ 武蔵野市の環境のよさを現している農地を極力保持していくよう希望。
- ・ 南町は農地がない。サツマイモ畑も宅地になった。西部地区は農地がのんびりしていて好い。
- ・ 武蔵野市で採れた農作物を買いたいと思うが、どこで売っているかわからない。PRが足りない。スーパーで外国産ではなく地元産が並べば安心して買え、環境にも役立つ。なぜ農地が「指定から30年」なのかわからない。融通の効くシステムが政治行政に必要。海外生活を通じて危機感。



- ・ 我が家の周りには農地農家が多く、直売所も近いのでよく利用。旬のものが新鮮手軽に入手できるので助かる。季節感を子供に教えることができ、とても良い。
- ・ 地元産は安心。新鮮なのでJAのスーパーで買う。もっといろいろな野菜を楽しみにしている。機会があったら農業体験やボランティアをしたい。
- ・ 直売所で購入している。新しい野菜が出ると説明してもらって購入。最近はシャワースプラウトというのを購入。楽しいです。
- ・ 北町生まれ。40数年前に幼稚園で市内農家にサツマイモ掘りに行った。小1では校内竹林でたけのこ掘り、そのたけのこでお昼ご飯だったのがとても嬉しかった。スズメの数が増えたり減ったり、ヤモリが家の周りに何匹いるかなど関心。抗生物質を使用した肉は焼くとわかるが、野菜はわかりにくい。薬剤がどれほど使われているか心配。形や色が揃いすぎている作物は逆に気持ち悪い。
- ・ 畑が建物に変わっていくのがもったいない。先日関前で麦を見た。どこで使うのか。
- ・ 武蔵野市で農業体験をしたが、今では農業に触れる機会がなくなった。今回のアンケートでもう少し農業に関心を持とうと感じた。
- ・ 東京は全国から物資が入るが、新型インフルエンザ、口蹄疫などに備えて農地を守ってほしい。農家も地産地消の気持ちでがんばって。武蔵野市で食の一部でも自立してほしい。
- ・ 近くに農家。新鮮、安価な野菜を提供してもらって助かる。相续で農地が住宅になったのを見た。武蔵野市は固定資産税が高いのでそこをクリアしないと。
- ・ 関前には多くの直売所があり感謝。他地域も増えれば良い。
- ・ 市民農園がもっとほしい。農家が農地を市民に開放して、農業指導をしてほしい。
- ・ アンケートの意図がわからない。土地の経営方針に行政が介入できるのか。無駄。
- ・ 直売所の「どこで」「何を」売っているか、旬の野菜の情報を市報等で定期的に提供してもらおうと利用が増えると思う。
- ・ 武蔵野市民になって8ヶ月。周辺のことはまだ知りません。
- ・ 友人と市民農園を楽しんでいる。自分もやりたいという方が多い。子供の教育にもなる。指導者が常駐してくれると良い。
- ・ 野菜を直売所で多種類買いたい。
- ・ 近くの生産緑地は耕作されていない。高齢が原因。所有者と市で相談して利用しなければ、市民農園ではだめ。
- ・ 農業者には宗教法人のように無税にするなどしたら地産地消が活発になる。
- ・ 近所に農地は比較的多い。もっと直売所が増えると嬉しい。ぜひ利用したい。
- ・ 野菜だけを買いに出かけることは少ないが、鮮度が重要な枝豆、とうもろこしは足を運んでいる。農薬の使用状況がわかりにくい。大規模な野菜の専門店があれば利用したい。
- ・ 駅周辺に産直ショップがあれば利用者が増え安定収入につながる。独自の企画商品を開発してPRすることが重要。都市化と農地を守る両方が必要。子育て家族には住みやすい環境で、市の成長につながる。境から大阪に越した友人が東京に戻ることに迷わず境を選んだ。
- ・ 農地の横を通りかかると農作物を眺めると心が洗われる。
- ・ アンケートに答えることで生産緑地などを知った。武蔵野市は緑が多いがこれらの政策で守られていることがわかった。アンテナショップも知らなかった、PRを。スーパーの露地もの野菜も積極的に購入したいとアンケートで思った。
- ・ 日常の行動範囲内では農地を見かけることはほとんどないが、地産地消は必要（価格によるが）
- ・ 季節のとうもろこし、葉唐辛子、白菜、トマト、きゅうりなど必要なときに買いに行くのでせめて現状で維持するか、増やしてほしい。
- ・ 農地の多い町って良い。旬の食材がわかって楽しい。JA玉川（二子玉川）のようなショップがあったらもっといく。
- ・ 日照りが続くと砂ぼこりがすごく窓を開けられない。草などを燃やすので洗濯物に染み込んでしまう。近くに広い農地があるのは良いが、購入はできないので好感が持てない。悪い方が先立ってしまっている。
- ・ 農業や農地の場所がほとんどないのが悲しい。
- ・ 農地があり恵まれた自然環境がありがたく感じる。農作物で季節を感じるができる。どこの畑もきれいに整備され農家の苦勞が窺える。都内で農業を続けるのは大変なこと。行政でバックアップして農家や農地を守ってほしい。そのために税金が使われるなら嬉しい。
- ・ 吉祥寺で畑を続けている方には感心します。
- ・ 朝5時から散歩しているが農地があると清々しい。今何ができているか、日に日に大きくなる作物、切花を売っているとこんな花があるのかと思う。

- ・ 新鮮な野菜が購入できるのでよく利用している。長く続けてほしい。
- ・ 都市部の農業のあり方をもっと議論を。農地ありきでなく限られた土地の有効利用が求められる。近所の農地では葉物野菜が多く見られ税金対策上のみせかけ農業のように感じる。農地の周辺は住宅やマンションが建ち並び、農地だけがスポットのよう残され、生産性の低い野菜を作っている現象はどこかおかしい。公共的な場（緑地、公園、高齢者用施設等）としてのアプローチが必要。農地の外れに建つ農家の大きな家がアンバランスで都会の農家の姿をものがたっている。
- ・ 農薬をなるべく使わないようお願いします。
- ・ 4年前から野菜作りをしている。自然に触れ、時の流れを感じ暮らせる日々を楽しんでいる。農地はこれからも残してほしい。
- ・ 市民農園を利用し農業を身近に感じている。種や苗をディスカウントショップで購入したが、市内で育てられた種や苗を購入できればよかった。JA新鮮館は予約制の上取り取りが平日しかなかったので会社の休みが取れず、断念した。
- ・ 広く見渡せる農地などがあるとホットする。せめて今あるものは残してほしい。土、泥、葉、実など安全で自然なものに触れられる機会が減っていると思うので子供達が直接触れ感じられるよう場所を大切にしてほしい。
- ・ 買いやすい場所があると良い
- ・ 目の前に畑があり、農作業をしている姿を良く見るので身近に感じる。武蔵野市は自然の多い町として有名なのでマンションなどが増え畑がなくなると魅力がなくなる。土ぼこりやトラクターの音がすごいことはあるが特に気にはならない。保育園幼稚園のこどもの農業体験は貴重、楽しんでいる。直売所では並んでも買っている人がいるので役に立っている。アンケートをとらないと農地が減ってしまうような危機にさらされていること自体が悲しい。
- ・ 家のすぐ近くに農地があり素敵。身近に農地があり四季を感じる。時間とお金に余裕があれば市民農園なども利用してみたい。武蔵野市の農業を影ながら応援しています。身近なスーパーに武蔵野野菜コーナーがあれば購入したい。武蔵野市というブランドがあるので有機や完全無農薬栽培で更なるブランドアップを。安心できるものなら少々高くても買う。
- ・ 野菜を買うときは基本的に国内産を買う。武蔵野産が安全新鮮なら近くのスーパーで買いたい。武蔵野産の野菜がこんなに良いとの印象が根付けばそれを選んで買うことになる。良いものでなければ市内産でも買わない。実家では農家に行きその場で畑から収穫してもらうので虫もたくさんついていて気持ち悪いときもあるが葉っぱが厚くおいしい。近くで買えれば嬉しい。
- ・ 昔の面影を残す武蔵野をこれ以上構造物で破壊してほしくない。農業、農地はできる限り最低限の存在として市が保存に協力をお願いしたい。これからの環境それを身近に体験できる場所は子供たちにとっても大切。安易な道路拡張による農地転換だけは避けてほしい。
- ・ 市内産の野菜がスーパーなどでも購入できると助かる。購入場所から遠い人は事実上困難。地産地消の取り組みがもっと必要。生ごみを肥料として農家に利用してもらえようような循環型の仕組みを作ることができないか。ごみの減量にもつながる。
- ・ 近隣で燃やすところがあるが、家中くさくなるので困る。アンテナショップのPRが必要。場所不明。
- ・ 農地は緑地。災害時には避難場所にもなる。緑豊かな武蔵野市に。
- ・ 年々住宅化が進み住宅の隙間に農地が残っている印象。農家も後継者がいなければどうなっていくのか。農地の集約、住宅地との棲み分け、後継者の育成なしに現状のまま農地がぼつんと残れば次の世代が住宅地の中で農業を継続するのは違和感。
- ・ 住まいの周りに農地や農産物を売っているところがなく残念。吉祥寺なので仕方ないが。市内の農産物は多いので農地に近くなくても手に入るようPRや直売所を多くしてほしい。
- ・ 農地を維持してほしい。林や緑地を増やしてほしい。
- ・ 都市の中にある農地は例えれば砂漠の中のオアシスのような存在。ぜひ残してもらいたい。
- ・ 恥ずかしいが武蔵野市で多くの農産物を作っていること、40を超える直売所があることを知らなかった。直売所で農作物を購入できるのは理想だが、勤めていると休日や夜間しか買物できず、利用できない。大手のスーパーや夜間も開いているショップに地元産の農作物のコーナーを設けてもらえば利用（値段にもよるが）
- ・ あちこちの直売所でよく買う。生産者ともよく話す。新鮮、質も高い、生産者の意気込みも感じる。わざわざ買いに行くのが良い。スーパーにコーナーがあっても私は利用しないと思う。もし設置するなら市の地図で農地を示して。
- ・ 農地は緑地としても重要ですが住んでいる地域では見かけない。地域に偏りがある。農業の継続に問題があるならもっと市民に情報を公開して活用（市民農園）すればよい。興味ある人は多い。
- ・ 半世紀を振り返ると北町、成蹊大裏辺の農地がどんどん宅地化。しかし23区から吉祥寺駅に近くなると緑が多くなる。狭い場所も利用し野菜作り、実の付く樹木を1本でも多く植え、緑を残してほしい。現在の小学生が、60歳くらいにな

る半世紀後の武蔵野周辺の美しさを夢見ている。

- ・ 農家の庭先販売で新鮮な野菜が安く購入でき、都内の友人に土産として好評。購入の際農家の方と話して食べ方も教えてもらい助かる。
- ・ 天候に左右され不確実なことが多い農家は大変だと思い、感謝。就職難の時代若い人に農業への就業を誘導しては。
- ・ 農地があるとホットする。季節ごとに野菜ができ、この都会で農地が維持できるのは奇跡で感謝。直売所は親切、取立てをくれたり料理方法を教えてくれる。他地域から武蔵野に越してきたが、武蔵野市の緑に対する姿勢はすごい。これからも守って。
- ・ 産地が武蔵野市と書いてあると身近に感じる。同じ農産物なら武蔵野市産を選ぶ。畑を見るとホットする。これ以上畑が減らないでほしい。人間も自然も一部、畑の緑は癒し。
- ・ 武蔵野は吉祥寺があり人気なのでおしゃれさと農業をコラボすれば良い。吉祥寺に集まる人からレストランでの活用やおしゃれなショップなどのイラストやデザイン機能など募集したらよい。
- ・ 産直野菜を駅前で売ってほしい。栗拾い、果実のもぎ取り、筍掘りなど季節季節で子どもと楽しみたい。
- ・ 都心なのに緑が多く農地が多く環境がととてもよい。直売所で新鮮な野菜も買え助かっている。
- ・ 引っ越してきて半年。武蔵野市は畑が多く良い。都会なのに意外。直売所の場所がわからず地元産はどこで売っているのか気になっていた。(愛知県ではたくさんあったので) これからも緑や畑の多い武蔵野市であってほしいと思う。
- ・ 地方の農家と比較しても耕作されている農地が多く、農業を実際に生業としている人が多い。頑張っている農家がたくさんいる。
- ・ 駅近くには農地をほとんど見ない。自然も感じられない状況で農地という言葉はピンときません。市内に10年くらい住んでいるが自然が減って来た気がする。残念。
- ・ 子どもたちのためにも新鮮なものを食べさせたいと思うので、もっと手軽に武蔵野市産の野菜を手に入れられたらよい。
- ・ 暮らしに潤いを与えるため緑地、農地は大切にすべき。宅地化が進む中農業従事者の意識(マナー・配慮)の変化も必要。  
(ほこり、音は仕方ないにしても境界付近での焼却や植木や枯葉以外の人工物の焼却はマナー違反。住民は布団干し洗濯物干し、自転車のカバーなど困ることが多い。後継者の問題や労働力の問題と思うが、植木らしきもので農地をカバーして農業地として放置しているものを見るが、農地緑地としてもっと積極的な使い方ができないか。市などが中心になり借り上げるなかで他のマンパワーが介入する活用を考えたほうがよい。気候変動への対応を研究する意味でも例えばコンテナ+太陽電池エネルギーで室内栽培の研究拠点を作るとか、先進的な試みを大学、企業と連携してできないか。
- ・ 毎日仕事で忙しく武蔵野市内の農地を気にする機会がありませんでした。このアンケートで初めて知ったことが多い。市内で安全安心でおいしい野菜を作り安く手に入ったら良い。武蔵野市が住みやすく食物自給率が高い市になると素敵だと思う。フランスは「おしゃれ」ので有名ですが、実は農業国だと聞いたことがある。日本は戦争中食べ物に困ってつらい思いをしていた最中フランス(他の外国もそうだと思うが)は農業国だったので困ることはなかった。武蔵野市に限らず、日本全体が農業に関心を持ったらよい。武蔵野市のような人気のあるところで農業も有名になってゆくと他の地域にも人にも良い刺激になる。
- ・ 以前は自宅近くに畑があり農家を身近に感じていたが、今はほとんど宅地に変わり農家がなくなった。今一生懸命続けている農家を将来も続けられるよう少しでも協力してあげてほしい。
- ・ 子どもと散歩中畑の前を通るとのんびりした気分になり気持ちよい。野菜が育っていく過程がみられるのが楽しみ。直売所の前を通るときにはそこで買うが、わざわざ買いに行くまではしないのでスーパーなどにおいてもらえるともっと購入機会が増える。
- ・ 岩手出身だが、武蔵野市でも身近に農地があり安心した。子どもたちに季節の野菜を教えてあげられるので嬉しい。子どもに収穫の喜びなどを体験させられればなおありがたい。
- ・ 境南小に子どもが通い、ちびっ子農園の体験が貴重だった。給食も素晴らしく食に興味をわき、安全ということは今も重視している。センター方式より地元の安全な野菜を使った自校方式給食が良い。地産地消が理想。税が安くなるためとりあえず木を植えて実体(収穫)のない農地にしているのは不公平だ。郵政宿舎の跡地が無駄な公園になるのは反対。市民農園になったら利用したい。
- ・ 武蔵野市の広報テレビで野菜果物特産品などを積極的にPRしてもらいたい。
- ・ 農地は良く目にするが農家の方とは(会社に行っている)のでほとんど会ったことがない。農業体験は我々には良いことと思うが、農家の方には逆に手間がかかってしまうと思う。なのでボランティアや商店で売れるルートを増やしてほしい。
- ・ 農業に対する知識はないが見よう見まねで狭いところだが毎年新鮮な野菜を育て、育てる喜び、食べる喜びを孫と味わっている。わずかだが取れたときは大騒ぎ。これからの日本を背負っていく子どもたちにとっても素晴らしい体験。もっと

知識があればと常に思うので近くで農業を気軽に教えていただけるシステムがあればもっと広がるのでは。農業を大切にしていきたい。

- ・ 吉祥寺に住んでいるので農地をそれほど意識したことがありませんでしたが、今回のアンケートをきっかけに武蔵野市の農産物に興味を湧いてきました。お店でも探して買ってみようと思う。
- ・ 農地の有効利用法として市民農園の拡充を希望（今より利用しやすくしてほしい）
- ・ 野菜は日常液近くの大手スーパーで買っているが、地域の農家の野菜が出れば必ずそちらを買う。作り手の顔が見えるのが良い。夫婦で売り場に立っていると「頑張ってる」と声をかけたくなる。家の近くには野菜畑、果樹園があり駅近くとは言え身近に感じる。家族を持つ息子も小学生の頃、町内の農園でトラクターに乗せてもらったことを今でも覚えている。孫娘も嫁の実家で畑の仕事を少しづつさせてもらっている。農業体験は良い。給食に自分で作った野菜が出ると特別においしいと地域の子どもたちは言っている。
- ・ 介護や仕事でパタパタしているので深く考えた事はないが、幸いなことに農家が（三鷹市、小金井市にも）近くに点在しているので食材を選んで（ラッキーなときもアンラッキーなときもあるが）手に入れている。農家の方に料理方法を聞いたり、欲しい物が手に入った時の喜びは格別。いつも作ってくださる方に感謝。
- ・ 保育園で農業体験をしていると聞きいい体験だと思った。子供達が畑で野菜を育てたり摘んだりするのです。もっと身近になったらいいと思う。
- ・ 近くに農地があるが小さいので個人消費用か市場に出す農作物を作っているのかわからない。市が支援するのなら、近隣との接触がもっとあれば広がる。ほこり等気になるが住宅だらけの街より土があるほうが良い。
- ・ 今後も生産緑地だけは残して新鮮な野菜を消費者に提供してほしい。三鷹市の直売所をよく利用するが（勤務先の関係で）すぐに売り切れる。消費者はうまいものをよく知っている。
- ・ 畑があると視界が広々していて犬の散歩の時にも通りたくなる。自然が残されているのはとても癒される（100%の自然ではないが）
- ・ 緑町、北町周辺は畑が多く、市内の農産物を直接購入することもできるが、南町周辺では畑がなくスーパー等で購入するしかない。吉祥寺の駅近くに市内産のみを売るお店を作ることで市民も意識し購入する機会を持てるのではないか。
- ・ 生産緑地＝保全する農地は指定保護されている中での農業はもっと開かれてしかるべき。JAも近くの人には便利だが少し離れると利用するのは面倒。もっと農産物をどこでも買えるルートに乗せると良い。知っている人の範囲が狭い。農産物の宣伝も下手。
- ・ 新鮮館について レジに並んで会計するまで狭い通路で買物する人とぶつかる。レジの場所を考えた方が良い。開店時間を10時ではなく夏場は9時頃にしてレジをスムーズにほしい。野菜は朝取りでとても美味しいので農業は大切に守ってほしい。
- ・ 農業にまったく関心がないわけではなく、むしろ興味がある方だが、どうしても「低収入」「不安定」というイメージが先行して敬遠しがち。若い世代が安心して農業に携われるようなシステム、政策を実現してほしい。
- ・ 正直なところこのアンケートを戴くまで武蔵野市の農業、農地についてあまり関心がなく、考えてみたこともない。アンケートをきっかけに今後はもっと関心を持って農業を観察し、そのあり方を見つめていきたい。
- ・ 家の近くに直売所があるがいつも自転車で通り過ぎてしまう。開いてる時間外だったり他への外出途中だからです。スーパーなどで買うより人間臭さを感じることができ直売所は良いものだ。今後は利用し武蔵野でどのような野菜ができるのか知るようにしたい。
- ・ もっと直売所があれば良い。
- ・ もっと手軽に利用して役立てられたら良い。空いている土地を利用して農地にして一時的にでも使えればよい。
- ・ アンケートはプロの方にお願ひすべき。この調査票は設問、選択肢ともひどい。
- ・ 武蔵野市の農地はなくしてほしい。担い手の高齢化が気がかりです。市民農園として区画割して貸し出してほしい。
- ・ 家の近くに果樹園があり季節ごとに果物を購入している。住宅街の中に広い農地があることはとても安らぎを感じている。武蔵野らしさが残る貴重な景観でもあるのでこうした農地はぜひ残してほしい。
- ・ 農家の方の年齢が高齢化しているように思う。農業に興味のある若い人たちを市で募集することはできないか。大切な農地が宅地化されないよう緑を残し農業が栄えることを願う。
- ・ あまりPRされていない気がする。もっと市民一人一人に身近に感じられるような取り組みがあると嬉しい。
- ・ 土地価格の影響もあると思うが南町、本町方面にも市民農園、農業公園を充実させてほしい。
- ・ 消費者の好みにあった作物の選択、効率化による生産費の引き下げ、流通ルートの開拓を真剣に考えて農業が行われているのだろうか疑問に思うことがある。現状ではそもそも採算がとれているのかとさえ気がかり。もし採算が取れていな

いならいずれ行き詰るのではないか。

- より手に入りやすくなると好ましい。直売所以外にも取り扱う場所を設けてほしい。
- 市民農園をぜひ増やしてほしい。定年後の健康のため市民農園を始めたが一期で終わりになってしまった。継続できるシステムを確立して。
- JA新鮮館の農産物はとても新鮮でありがたく利用させてもらっている。ただ家から遠いのでしょっちゅう行くというわけには行きません。数を増やすことはできないのでしょうか。
- 農業をただ保護するだけではなく産業として自立できていなければ継続できなくなる。環境面等問題もあるが本当に市内で農業が成立しうるのかを検討する必要がある。特に「残す」ありきの議論でなく選択を考えなければ。
- 新鮮館、麦わら帽子は知らなかった。どこにあるのか知りたい。吉祥寺駅前広場、東急裏広場で販売してくれるとわかり易い。なるべく市内産を買いたい。農地は今以上にあったほうが武蔵野らしい。
- JA武蔵境を利用しているが、自宅からもっと近い桜堤団地の中に開いてほしい。
- もっとテレビ番組を利用して一ニュースだけでなくドラマやバラエティのロケ地として一知名度を上げましょう。都市で農業を続ける意義、苦勞を考えるきっかけを作しましょう。「武蔵野ブランド」の野菜をもっと目立たせましょう。
- 値段、量、大きさ、重さとか一致すること。量が少なくて高い、大きくて安いと美味しくない、ところがある。市長はすべての生産者〇〇（不明）会で食べているのか。選挙のときだけペコペコと聞きます。税金考えてください。
- 吉祥寺に住んでいるが近くに農家はない。駅近くに直売所を出してほしい。最近良く聞く農家の方が直接接客しながら売る「マルシェ」のようなものを月1回でも2回でも定期的に開くと良い。井の頭公園のような丁度良い広場もある。ぜひ農産物に限らず手作り品などと一緒に販売すると吉祥寺の集客にもつながるのではないのでしょうか。最近いろいろなお店が閉店して元気のない吉祥寺を活性化するためにも実現してほしい。
- マンションが増えてその谷間に農地があるという状況に残念な気がする。宅地化農地がマンションにならないようにしてほしい。
- 地域で買えば新鮮で生産者の顔も見えるのもっと有機栽培や無農薬野菜を作してほしい。
- 北町に住んでいて買物途中農地を多く見る。子どもたちはブロッコリーやとうもろこしが植えられているのを見るのが大好きで「大きくなってきたね、もう少しで食べられるね」と楽しみにしている。近くに直売所があるが私が行くときにはいつも閉まっていたなかなか購入できない。
- 武蔵野市のような都内の農地の最大の効用は景観及び自然の保護、維持。したがって行政の役割は単なる市場メカニズムだけで放任するのではなく、環境整備、補助、支援をする必要がある。農家の自主努力だけでは限界がある。
- 入手できる場所と時間が限られているのでせっかく地の物を食べたいと思っても手に入れにくい。金銭的に多少余裕が在る層は多少高くとも安全なものを食べたいと思っている人も多いはず。駅周辺の便利でかつ営業時間が長いスーパー等で購入できると良い。また家族（子どもあり）のためにも安価でよいものを望みます。復活する三浦屋にまた地元コーナーを作ってください。
- JA全農、新鮮館、農家の直売所等が少ない。一般的なPRが不足。スーパーで販売できないか。いろいろ研究したほうが良い。買い易くする方法をもっと考えたら。
- 普段農業、農地に触れる機会が少ない。今ある農地を生かすためにもっと武蔵野市産の物のよさをアピールして、購入し易くしてほしい。子どもたちに農業体験ができる機会はぜひ作ってもらいたい。武蔵野市が大好きなので都市化を進めるだけでなく、安心、安全な農業をアピールして。
- 以前市民農園の申し込みをしたと思ったら、申込日が平日でした。市に問い合わせたところ、仕事を持っている人は不可だといわれた。仕事を持っている人でも勤務先が近かったり、定時で仕事が終わるなどの人は朝夕畑ができる。一律に物事を決めるのではなく平等に参加できるように。
- 今年は特にでしたが、天候不順で農作物の生産が安定せず、高価だったりしても直売所でとても助かる。でも私の周りでも直売所を利用しない人が意外に多いのが不思議。農地をますます増やすよう計画して。
- 武蔵野市といっても広く、農地に近い人がうらやましい。第一ホテルの近くでも楽に手に入るようにして。
- 都心に近い割りに駅周辺にも農地があるのは珍しいと思う。もっと直売所を利用したいが、どんな野菜があるか良くわからないので、ついスーパーで買ってしまふ。
- 目の前に広い農地があるが、すごく気持ち良い。今は何を作っているのか、あれは何だろう、とか。子どもの散歩コースに利用している方も多いと思うので、「これは何の野菜です」という看板があると、歩いている人も興味を持つと思う。主人の実家が新潟だが、スーパーに入るとすぐ農家の野菜コーナーがある。やっぱり農家の方が良いと言う根拠はないが思いがあつてまずそこを見て、買ってしまふのでスーパーにコーナーあると良い。農業フェスティバルとかあれば、参加し

たい。武蔵野市ファーマーズマーケットとかイベントで週1回（月1回でも）どっかの夜（夕方から20時までとか）皆来るとし、楽しく参加できるからいいのではないか（もしすでにやっていたらスイマセン）

- ・ 国や市などの行政が農家をバックアップして自分たちの食べる物をなるべく自分たちの市で作っていけるシステムを上手に作れると良い。
- ・ 宅地と農地が良いバランスだと思う。これからも農地が減らなければ良い。
- ・ 年々都市化が進んでいる中で、武蔵野市は農地と都会がバランスよく配置された素晴らしい住環境を形成していると思う。だからこそ、これ以上農地を減少させて都会の雰囲気のみ息苦しい環境を作ってほしくない。自然を失くした環境からは何も育たない。人間が作り出した建物には生命を感じないけれど農地には生命がある。
- ・ 全く関心が無かったがこのアンケートをきっかけに少し考えることができるかも。スーパー（西友とか）で武蔵野産地コーナーがあればよいと思う。地元なのだから店側も協力してほしい。
- ・ 地産地消のためもっとPRすると良い。人が多く集まるJR駅前にアンテナショップを常設する等の工夫をすれば市民の関心は高まる。今の時代は価格よりも安心、安全かつ新鮮が購入する際の重要ポイントなので、その点を大々的にアピールすれば良い。
- ・ 武蔵野市・農協が中心となって市内の農業振興と農家の育成に力を注ぎ、日本の農業を守ってほしい。
- ・ 家の周りには農地がある。環境はとても良い。農業をしていない私にはこの環境を残してもらいたいが実際に農業をされている方はどう思っているのか。農業は大変な仕事。一方的な考えで農地を残してほしいといっても…と思います。
- ・ 武蔵野市は緑が豊かで自然に恵まれているところが好きなのでぜひ農業農地も市が応援していただき、残して欲しい。市民も意識して地元の野菜を買って協力できると良い。
- ・ 農地利用について「税金対策なのか」と思ってくるほど、野菜の収穫もされていなかったり（枯れている）するところを見かける。残念な気持ちになる。
- ・ 桜堤にはほとんど農地が無く直売所も無く残念。子どもの小学校のある緑町や幼稚園のある関前の直売所はよく利用していた。子どもたちも武蔵野の野菜は他のものよりよく食べるように思います。
- ・ 散歩していて野菜畑を見るとほっとするので武蔵野市からみどり、季節の野菜作りをやめないでください。お願いします。自治会の野菜売りがあるときは近所の人たちは喜んで買いに行きすぐ売れてしまう。今後も度々続けてください。アンケートありがとうございました。
- ・ 農地が宅地化されて段々少なくなっています。
- ・ もっと武蔵野産の農作物を買いたいと思っています。販売するところを増やしてほしいと思う。新鮮で安全な野菜は大変貴重です。
- ・ 直売所で購入した野菜の美味しさは格別でいつもありがたく利用しておりますが、この地価の高い武蔵野市であれだけの手間をかけて作り、この安い価格で売るのは農家の方々は大変だろう。利用者としては今までのように直売所に野菜が並んでくれたほうが助かりますが、だんだん無理になってくるのではと思う。高い土地での農業は成り立たないと思う。
- ・ 申し訳ないが、近くに農地が無く接することもないので意見を申し上げられない。
- ・ 武蔵野市には農業のイメージが無かったのもっと知る機会が在ると嬉しい。例・農業に関する会報誌や直売所の案内、チラシなど。東京の農業・農地は貴重なので関心を持たなくてはいけないと感じた。
- ・ 戦中戦後、当時周辺の農家は生産者の強みで一般市民に対して極度の食糧難に乗じて物々交換など不当利得を得ていた。当市に70年以上にわたり居住しているがいまだに当時のことが忘れられない。しかし平和な現代において過去にとらわれることなく、冷静に都市農業のあるべき姿、そして環境に合うよう農家への市の指導が必要と思う。
- ・ 限られた土地と不足する人手などが効率的に課題解決できる施策があればよい。買いやすいアクセスや一度に物が揃うような場所があれば使いたい。JA新鮮館や麦わら帽子をこのアンケートで知ったので利用したい。
- ・ 市民が参加できる仕組み、情報提供、交通手段等のより一層の整備を期待。
- ・ このアンケートで知ったこともある。農業がもっと身近なものになっていけば良い。
- ・ 近くに市民農園があるが、なかなか抽選にあたらないと聞く。市の西側には直売所がたくさんあるけれど南町辺りには無く、買いたいと思うけどJAくらいにしかいけない。直売所で朝採れた野菜を買いたい。近くに作ってほしい。
- ・ 農業後継者の不足や相続税納付のために農地の減少（転用や売却）などが危惧されます。農地存続の優遇策を検討いただきたい。
- ・ 武蔵野は依然住んでいた所よりずっとずっと自然が多くて気に入っている。グリーパークをはじめ農地も武蔵野市に欠かせない風景。夜は農地の周りを主人と散歩するのが日課で「あの野菜は何かな」など話してとても安らいでいる。なので

農地がなくなるのは悲しい。直売所も武蔵野市に来て始めて見て嬉しかった。泥の付いた任にんじんやねぎは都内では見ることが少ない。そういう良さがなくなったら「武蔵野市の良さは」と人に聞かれてもこたえられなくなりそう。農地が残ったら嬉しい。

- ・ 市民農園をもっと増やして。またいつ募集しているかわからないのもっとはっきりしてほしい。農業とは関係ないがドッグランを作って。ひとつあるのは知っているが遠すぎる。
- ・ 農地を宅地にするのではなく、みどりの保全に役立つ用途にしていくべき（公園等）。農業を継続できる環境（補助金、助成金）を整備していくべき。
- ・ J A武蔵野が近いのでよく利用するが、商品数(数)が少ないためか、売り切れていることが多い。地元産の安全で新鮮な野菜を買いたいと思っているので地元農業が減らないことを望む。
- ・ 南町にはあまり農業、農地が無い。空き地を生産緑地に指定してほしい。長年空き地となっているところがかかなりあるのもったいない。
- ・ 農地がたくさんあっても良い。学校などの授業でもっと農業について身近に参加できる機会を多く作ってほしい。子どもが野菜嫌いで困っている。育つ過程を知り、収穫の喜びを知ったら少しは食べるようになるのかも。もっと身近な存在になってくれると嬉しい。
- ・ 武蔵野市は生産緑地が多めで自然豊かな都市なので大好き。今のままであまり都市化が進まないことを望む。
- ・ 武蔵野市は緑豊かな季節を感じられる市なので、今後も農業、農地は必要だと思う。市民農園など市民に農業、育てることの大切さ、大変さ、楽しさを知ってもらい、理解するためにもっと増やせばよい。生産緑地は都市計画法で決め付けてしまうのではなく、臨機応変に対応できるようにできればよい。
- ・ 住宅地の中の農地を見かけることが無いので、食品を購入することが無いので適切な意見が言えない。もし直売所があっても高齢なので持って帰れないと思う。
- ・ あまり何も知らずお役にたてずすみません。ガーデニングくらいははずれしてみたい。
- ・ 仕事の無い若者が多いと聞く。この人たちに農業に関心を持ってもらい、ここに税金を投入しても良い。子どもも大事ですがもっと若者に元気に活躍する場を与えることも市の仕事。
- ・ 吉祥寺に住んでまだ3ヶ月。吉祥寺といえば井の頭公園。緑のあるところはそこら辺くらいとっていて農地があることなどあまり意識していなかった。このアンケートで率直に思ったのは市としてもっとアピールすべきということ。多くの人が関心を持つ。
- ・ 若い後継者が増えているようで活気があり美味しい野菜を提供してもらえるのが何より嬉しい（朝の新鮮館）。相続などで農地が無くなり、「建売の住宅が増加しているように感じる。新鮮で安全で安く美味しい野菜を次世代以降の人々にも今まで以上に提供できるように、農家が減少しないシステムを。そのことが農業、農地を保全すること。武蔵野市に住んでよかったと思える環境にして。
- ・ 市民農園（貸し農園）を増やしてほしい。
- ・ 税金対策の農政は即やめてほしい。特権階級のような印象を受ける。武蔵野市の農地改革を期待する。一定以上の土地所有者に対し、「強制的に土地を取り上げ、取り上げた土地で管理の下有償で希望者に貸し出す。安価で貸せばよいというものではない。地主をなくし、農業の重要性を認識している大衆に有償で貸す。
- ・ もっと武蔵野市の特産品をアピールしたほうが良い。
- ・ 武蔵野市で生産している野菜や果物がどこで売られているのか情報がたくさんあればよい。
- ・ 中央線から見えるところに畑などがあって境のスイングビルの上からはそれぞれの季節に働く姿が見えてよいこと。市やコミセン等のイベントで市内農家の取れたて野菜や果物の販売があるとありがたい。木々だけでなく農地もきちんと残して街を維持してほしい。地面の自然を奪うような高層住宅をやたらに建てないでほしい。
- ・ 吉祥寺駅周辺に住んでいるので農地のイメージが湧かない。アンケートで知ったことが多く、武蔵野市の農業について考えたことはあまりなかった。私自身は農学部出身で農業、食について考えることはある。市内産の野菜がどのくらいの収穫量があるの知らないが、市内のスーパーで買えると良い。
- ・ 直売所の場所がわからないので地図を作ってほしい。またその直売所でいつ何が売られているのか教えてほしい。
- ・ 高齢のため、売っているところまで行けない。近くで売ってほしい。
- ・ 日ごろの農政ご苦勞様。今後市内の生産者と消費者 J A、市との懇談会を行い、都市農業の振興、地域経済の活性化、環境保全を拡大できるのでは。
- ・ 農地と住宅地が整然とした形で調和した街づくり、都市計画を期待。市内に数多くある樹木と公園の維持保全に十分に予算を。5年先10年先も緑の多い素晴らしい景観の武蔵野市を切望。すんで14年になるが終の棲家を決めている。自宅

近くに数多くある農地、公園に日々安らぎを感じる。

- ・ 市民農園の清掃。境南町の畑が市民農園になる計画があると聞いた。私はその隣の公園を掃除するボランティア団体を平成12年に立ち上げ以来ごみ拾い、清掃、雑草の駆除、植栽剪定を行ってきた。今年5月にリタイヤしたので暇ができた。市民農園開設のあかつきには「お掃除おじさん」として朝晩1時間ほど見回り、清掃活動の様な仕事をさせてもらいたい。  
(住所・氏名明記)
- ・ 季節感のある本来の野菜の味がする物が食べられ、大変満足、今後も市の取り組みが必要。
- ・ 農地はだんだん減っている。今ある農地くらいは残してほしい。
- ・ 八百屋で中国産、米国産のものを買うより、少々形が悪くとも近くで採れた新鮮なものを買いたい。
- ・ 農業散布の不安。子どもが小さい頃サツマイモ掘りを楽しんだ。他の野菜も手に触れて大切さを教えたい。
- ・ 農地を見ながら歩くことは季節を知り大変楽しい。いつまでも続いてほしいと思うが。
- ・ 地産地消を進めるために農地を保全する必要がある。
- ・ 武蔵野市産の農作物の情報が少ない。1年に数度の販売でなくいつも手に入るルートを作してほしい。新鮮なうちに手に入れたい。
- ・ 農家の皆さんの作物を持ち寄り、まとめた販売所があると良い。私も農家の生まれで季節の物をたくさん食べて育った。四季を感じながら市内を歩きこの野菜は後どれくらいで食べられるか、など。先日車窓から麦の黄色くなった光景を見てとても懐かしく気持ちの落ち着きを感じました。これからの農業は大変なこともあるが、食べるだけでなく環境にも大いに役立つ。
- ・ 武蔵野市が東京にしては農地が多いことを非常に嬉しく思う。日々の生活の中で野菜や果物が育っていく様子に触れられることは子どもたちにとっても豊かな経験になる。農作物によって季節感を感じ生活に潤いをもたらしてくれる。農地がつぶされ、マンションが建つところを見ると貴重な市の財産が一つ減ったような気がする。できるだけ農地を残す努力を期待。
- ・ 武蔵野市の人口は広報によると13万5783人とあるが、その割りに人が多くひしめいているような感がある。こんな街に広い農地等があり、青いものが繁っているとどんなにゆったりするだろう。人口増に連れ、宅地も必要だが公園等でなく、生活に直結した野菜畑等があり春にはレンゲソウいっぱい畑が見たいものである。
- ・ 生産者が見えない。市民と生産者が交流する朝市や見学などの機会があると良い。
- ・ 都心に割りと近いのにいろんな所に農地があると良い。なるべく大切に守り、有機栽培の野菜を増やし安く地元の人を買えるようにしてほしい。
- ・ 住んでいる辺りには農地が多く無人販売所もあり農家の方の頑張りを感している。ただ買物は便利さからスーパーを利用することが多く、スーパーの中にも地元野菜のコーナーがあればぜひ利用したい。(実際緑町のサミットではよく買う)
- ・ 東京都でありながら農地の多さに嫁いできた頃は驚いたが、今はとても住みやすく気に入っている。子どもに土に触れる機会を多く作ってあげたいと思うので市民農園や農業体験などが近くでもう少し多ければと思う。厳しい状況が続くと思うがもっともっと若い世代(大学生など)を巻き込む体制を市が作ることで、バックアップ体制がなければ続けられないと思う。
- ・ 子どもの頃は下肥の臭いのするキャベツ畑でモンシロチョウを追い、幼小学校の虫に食べ尽くされたキャベツの葉に自然の摂理を学び、昆虫や植物の育成にはあまり関心がなかった。現在では小学校の教員ですらまるで田畑の農業経験のない若者が増えている。後世へ緑地や農業、自然そしていけるものの恵みの大切さを伝えていくべき。職務についている教師がまず農業にもっと関心を持ち、田植えや農作物の収穫までの苦労を実体験をもって子どもたちにその大切さ、貴重さを教えていかないと絶対に良い教育は施せない。まずは手で触れ、目で確かめることをさせない！。
- ・ 市民に対し現状の実態の報告が必要。
- ・ 農産物をもっと駅の近くのスーパー等で購入できるシステムやPRしやすいようにするシステムを作れたら良い。緑のある風景は心安らぐものであり、子どもたちに畑の野菜を見せることは自分たちの食べているものや作ってくれた人たち感謝する気持ちにつながる。都市開発ではなく農地を維持するために市で努力してほしい。
- ・ アンテナショップで購入するのみで農業、農地についてはあまり分からない。野菜等は新鮮で安価という点ありがたい。農地を宅地化せず農作物に力を注いでほしい。
- ・ 老若男女に関係なく、成長生きていく為にはいろいろな意味で「土」は必要なもの。
- ・ JA新鮮館を利用しているが、昼過ぎになると「残り物」といった感じの野菜しか並んでおらず、朝行きそびれるとその日行くのをやめる。忙しいとは思いますが午後にも新しい商品が並べられると嬉しい。
- ・ 市の農業、農地について老社セミナーで学んだ知人から教わり、今年初めて現地を手伝い、1日中野菜の栽培の方法を学



んだ。しかし、現在70代半ば近くではじめることは、高尾山の登り降りに苦勞する身には無鉄砲と考へ、自重して散歩に切り替えることが最適と感じた。

- ・ 武蔵野市の農業、農地についてあまり考へたことがなかつた。問1に示されているような農産物が市内で生産されていることに驚いた。
- ・ 両親が三鷹在住だが三鷹の農家の方が身近を感じる。南町に住んでいるので関前とかより農家が少ないからか。三鷹は日曜日の歩行者天国に農家が台を置いて販売したり、家の前のスペースにコインを入れると開くロッカーのような販売機があつたりする。残念なことに南町で目にする農地も自転車で通る農地も市民農園として使われているように見るのは楽しいが農業という形では知らない。
- ・ J A新鮮館はスーパーとは違つた元氣の良い野菜がどつさりあつて武蔵野の農家の人たちの顔が見える場所で、これからも頑張つてほしい。ついついスーパーで買つてしまうこともあるのもっと便利な場所にあればとも思う。
- ・ 農地というと単に木が植えられる場所が多いのでは。安全で新鮮な野菜は魅力がある。高くても購入する。単身者なのでサラダ、ジュースなど加工品がありがたい。インターネット販売も良い。子ども農園が近くにあるが見ていて微笑ましい。良い活用法だ。
- ・ 保育園への食材提供や農業ふれあいなど素晴らしいと思う。畑の中で花火を打ち上げるなど非常識、自分の土地という意識が強すぎるのでは。
- ・ 中学生の時まで武蔵野市にいた、54歳にて戻つてきた。緑多く、木も大きく昔のまま残っている。最近日本は新しくするために木を切り倒してマンションにしている。仕事で英国に行くが何度行つても景色はそのままで思い出深い。昔のものを大事に残すことは教育としても同じ指針、共通点。農家を大事に、そして野菜を育てる喜びを子どもたちに伝えて。提案。道路脇に花と野菜をあわせてガーデニングしたら。
- ・ 気安く収穫等に参加できる農家とのふれあい（とうもろこしもぎ、ブルーベリー摘みなど）があればよい。
- ・ 東京にいながらも畑などの農業風景が見えると安心する。武蔵野市の農業はたまにテレビで見たり、アンテナショップ麦わらの店員さんがいつも元氣で一生懸命だったり、そのお店がたくさんのお客さんでにぎわっているのを見ていると武蔵野市の農業に対する取り組みは素晴らしいと日々感じている。都会の中で農地を維持していくのは大変だと思うが今後も益々武蔵野市の農業が発展していくことを願う。
- ・ もっと市役所・農協・農家が手を取り合つて市民に積極的にアプローチしてほしい。他市町村より遅れているように見える。
- ・ 新鮮で安い野菜が手に入り助かっている。このような取り組みをもっと広めてほしい。
- ・ 武蔵野市独自の野菜を開発する。
- ・ 季節を感じさせてくれる旬の野菜が育つ姿を目にすると心も和み、この地域で採れる野菜類を食べられることは安心で美味しく幸せです。どうか青々と広がる大切な農地をずーと守り残してほしい。
- ・ 練馬区に住んでいたとき近所に農地が点在していて、取れたての野菜を分けてもらっていました。土ほこりや臭いなど嫌がる人たちもいたが、それはエゴだと思う。ならば何も食べなければいい。地産地消という言葉は土や水、太陽、空気そして農にかかわる人なしには語れないし、できるだけ自給率をあげなければならないことも自明の理。なので市内の農業については拡大もしくは現状維持を望みます。このアンケートで地元の農に関心を持つてました。何も知らなかつたことを反省。ありがとうございます。
- ・ J Aから新鮮野菜の宅配を（週1回、季節のものなど）しても良いと思う。
- ・ 農地を市で守ってもらいたい。
- ・ 武蔵野市の農業を知る機会が少なく、日々の生活には影響がほとんどないので日々感じることはありません。出産後には戴いた武蔵野市コウノトリベジタブル事業野菜引換券のように農産物を購入する機会はとてもいいきっかけだと思う。ただ直売所は少し遠かつた。アンテナショップもあるが、吉祥寺の街の中にもっと武蔵野市の野菜を手にすることができる店があればよい。子どもにとつても農業や農地にかかわる環境は残して行つてほしい。
- ・ 問1のように市内産がこのようにたくさんあるとは思わなかつた。市内産と表示された商品はスーパー等では見かけたことはないので不思議。スーパーの仕入れ先によるのか、近隣産はよく見かけます。
- ・ 若年層に武蔵野市の農業をアピールするために駅や商店街なのでポスターやキャンペーンなどがあると良い。
- ・ 問1で武蔵野市でこんなに多種類の野菜が生産されていることを始めて知りとても嬉しい。都市化がどんどん進んで空地や緑が少なくなっている今子どもたちのためにもこれ以上農地や空地が減少しないことを望む。そのためにも私たちが市内で生産されたものを積極的に買い、利用し、武蔵野市でわずかに残された農業を守りたい。アンケートで長い間住んでいる地元のことを何も知らなかつたことに改めて気づかされました。市報等で農業の紹介ができないでしょうか。

- ・ 自然が多いのが武蔵野市の良い点。農業、農地を農業体験の場として残して。
- ・ 境南町の農家の方はあまり熱心でないよう。私はもっぱら三鷹市内小金井市内の農家の庭先販売を利用している。まるで武蔵野市とは取り組みが違うように思える。
- ・ 今ある農地を守ってほしい。農家への支援を市でもできたらやって行けるのでは。
- ・ 直売所がもう少し多いと嬉しい。どこで売っているのか、マップなど情報があると嬉しい。
- ・ コミセン祭りなどで産物に触れる機会がある。新鮮で美味しいと感じられる。
- ・ 直売所によく買いに行く。この辺（関前）は子どもが少なく南小は学年によると1クラスでさみしい。「この畑が大きなマンションになれば子どもも増えるのに」とも思う。畑が多いのは農家の税金対策と想っていたが、このアンケートでわざと畑を残していると初めて知った。
- ・ 夏が近づき直売所の営業が多くなり嬉しい。毎週利用している。以前に比べると畑は減っており寂しい。畑の横を子どもと歩きながら「あれなんだー」「なす」などとクイズをし、成長を見て喜んでいる。ジャガイモ掘り体験は予定が合わず行けないが、ぜひいろいろな体験を増やしてほしい。子どもも楽しみにしている。農家の方は大変だと思うが安全で新鮮な野菜を楽しみにしています。ありがとうございます。
- ・ 農地の横を通ると何を作っているのかなと思う。「ここでは〇〇を作っています」のような看板があると良い。子どもの誕生祝に市から野菜券をもらったが夕方にJAに行くとき売切れが多くなかなか使う機会がなかった。直売所では500円は使いきれないので300円券がよかった。
- ・ 市民農園を借りることができてよかった。足立区は小学校の空いた農地（2M×2M）をただで借りられるそうだ。そういうのもよい。子どもと市民が小中学校や近所の空き地で農業すると言うのもよい」
- ・ 全国的に農業後継者がいないこと。土地の相続の時点で宅地化されること。を何とか止められないか。農地の市買入れ、市農協での一括農業を。農業従事者を給与制にする。作業管理して農業＝工場と考えてはどうか。雇用促進にもつながる。
- ・ 市だけではなく国、地方全体で農家が農業を続けられる制度を作る必要。消費者も安さだけでなく彼らを支援する自覚を持つことが結局自分たちや子孫にとってもよいことだと意識しなければならない。
- ・ アンテナショップなどで武蔵野市の野菜を見ることがあるが、もっと身近に感じられるようなキャンペーンなどをしてもよいのでは。
- ・ 武蔵野市は緑化環境の素晴らしい土地でしたが、宅地化が進み農業がどんどん減ってきている。これ以上農地や緑地が減少することは絶対やめてほしい。
- ・ 週末にマルシェを開催するなど市内の農業の活性化につながる催しを市で企画するなどもっと身近で利用しやすくなるとよい。新鮮で美味しい野菜はみんな求めている。
- ・ スーパーで市内産の野菜をよく見る。意外と市内で作られていると思う。武蔵境駅前を三鷹駅北口のようにしないで。三鷹も武蔵野市側は緑地が保存されているように思う。高層マンションにするなら用地の空いた分は農地緑地にしてほしい。
- ・ 近くの直売所の生産者と顔見知りになり安全な農作物を提供してもらっていると思う。まち中では難しいかもしれないが、生産者との距離を近くすることでより市民が武蔵野市の農業について理解を深められる。農業について、食の安全について考えるきっかけにも。
- ・ 半農の人が多い
- ・ 住居の近くに農地がないため、こんなに沢山の農産物が生産されていることを知らなかった。地元の農産物を入手しやすく工夫をし、利用しやすくして。
- ・ 市内に公園や緑道に加えて農地があるので緑の多い良い環境になっている。JA新鮮館、庭先直売所はよく利用し、特に夏野菜は楽しみ。ぜひ存続してほしい。ただ近隣に住む人にとってマイナス面があるのか聞いたことがないのでよく分からない。我が家は公園のすぐ前で緑の恩恵を受ける一方大量の落ち葉に悩まされる。農地についても臭い問題などあるのかもしれないと思うこともある。
- ・ 直売所、アンテナショップ、ぜひ利用したい。
- ・ もっと農業のことを知る、実際に体験できる機会を市が提供を。
- ・ 武蔵野市全般として緑地、農地の拡張に努めてもらいたい。
- ・ 農地を宅地化して利益を得たことは許せない。兼業農家が大部分であり本気で生産しているか疑問。高齢者が片手間にやっており、後継者が不在なのではないか。節税対策が多いのでは。
- ・ 農家の方は、農地を維持していくのは大変なことと思うが、スペースがあることで住環境も守られている。維持するのが難しいときは、市民農園など利用したい市民が増えているのでなるべく環境を守る方向で維持してほしい。武蔵野市の野菜が即座に手に入るなら利用したい。いつも行くスーパーにあればよい。そして安く提供してもらえるなら沢山の人が利

用してくれる。

- ・ 有機栽培や無農薬栽培のものを増やしてほしい。
- ・ 休耕地も見られず、季節の農産物が生産されていると思う。消費者に安全、安価、栄養価の高い食料を提供してもらえそうな地産地消費政策を。
- ・ 隣接する地域との流通も図ってほしい。どこに直売所があるのかのマップがほしい。
- ・ 武蔵野市ならではの仕組みを確立して推進してほしい。緑が多く都心に近いのに農業を当たり前で営まれる、素敵だ。他では実現できそうもないからきっかけを武蔵野市が作って全国に広がると良い。
- ・ 農地と直売所が多くとても住み易い。これを減らすのは愚かである。
- ・ 市内に住んでいる老若男女問わず、こういう生産物があるんだということを街中に目に見える形で表現することが大事。
- ・ だんだんと減少し、マンション、宅地に変わっている。個人で続けるのは難しそう。直売所の利用は時間的に難しいのでコンビニやスーパーで扱って。
- ・ 近くに農地がないので、武蔵野市の農業について考えたことがほとんどないが、市内で生産された農産物入手する機会があれば購入したい。日常の買物は八百屋や商店ではなく、スーパーで日用品などと一緒に買うことがほとんどなのでこのような店においてあれば買いたいと思う。西友には「秩父屋」という秩父産の農産物を置くコーナーがありましたがこんな感じで。
- ・ 日ごろ農地を目にすることなく暮らしているが、JAの折込チラシが入るたび、市内産の野菜を食べたい気持ちになる。近所に直売所がないのが残念。
- ・ 適度に都会で適度に田舎、緑あふれる武蔵野市を愛しています。この環境を保持するためには農家の方が相続等で農地を手放さないような税制や作物の流通システムが不可欠。市内のスーパーで常にも買えるようになると良い。(勤めているので、直売所は時間的に利用できない)。西荻窪に武蔵野、三鷹の農産物をつまみに出す小さなバーがあり、時々利用している(農家から直接購入しているそう)。野菜は味が濃く美味しい。
- ・ 新鮮で安く美味しい野菜は誰もが食べたい。市民のために供給してもらいたい。
- ・ 農業、農地をもっと身近に感じられるようになればよい。
- ・ 少量でも買えるようにしてほしい。
- ・ 農業が身近に感じられない。
- ・ これからも農業に触れ合える武蔵野市であってほしい。
- ・ 農地が身近にあることは良い。維持するのは大変だと思うが頑張る。子どもたちの教育に貢献してもらい感謝。会社勤めなので買物は夕方以降になり、なかなかJAやアンテナショップには行けないが、直売所には見掛けたら行くようにしている。
- ・ 市内の農業のPRをして今後の方向性を示して。自由な発想で有効活用してほしい。
- ・ 地元のものは新鮮で手に入れたいが仕事帰りでは品切れになり残念。ハモニカ横丁辺りで夕方市なんてやってもらえれば嬉しい。今まで家のあったところがどんどん駐車場になり殺伐として悲しい。もっと潤いのある土地利用してほしい。
- ・ 今後農地を増やしていくことは難しい。市内の農地をいくつかのエリアに分け、農地を求めていく考えはいいが。農地が分散化していることにより、相続宅地化を進めてしまうことがある。市がこれを農地として借り上げた宅地と等価交換する。農政係と戸籍係(相続係)が連携を良くして縦割り行政からフラット行政で取り組んでほしい。
- ・ 季節によって何が旬なのか、いつ収穫されるのかが良くわかっていない。
- ・ 住宅がどんどん増える中で農地は貴重な緑の空間だ。将来の後継者を考えると難しい問題。市が計画的に土地を買い上げ、市が管理して勤務形式等で生産を続けられたら良い。
- ・ 南町に住んでいたときは、排気ガスのある狭い道路だったので直売所ではあまり購入しなかった。現在の境には近所に数箇所の直売所があり良く利用している。味の違いを楽しんでいる。直売所なので安価を求めているので、量が少なかったりスーパーと値段が変わらないと足が遠のく。実家の府中にも直売所があるが格段に量が多いし安い、また新鮮だと感じることも多い。武蔵野市では無人で出している野菜が無くなればおしまいが、府中では気軽に声をかけたり予約もできる。土産用に予約できたり、直売所になくてスーパーに再度出かけることも不要。直売所の野菜は美味しいので食べる量も増えた。仕方ないと思うが肥料をまいているので不安。使っていないものは表示してほしい。無農薬野菜は皮まで食べる。日中勤務に出るようになり地域の野菜が食べられなくなった。平日週2回でも直売所、アンテナショップ、JAでも夜遅くまでやってくれるとありがたい。新鮮さに欠けるのでスーパーの地元野菜には興味がない。安さと新鮮さが第一。包装も新聞紙で十分。
- ・ 家の近くに農地があるが何を作っているか知らない。買う場所も知らない。転入してきた私たちへの農地、購入場所のア

ピールがあれば必ず認知度が上がる。利用しやすければスーパーより利用したい。

- ・ 自転車で緑地のそばを走るとホッとする。しばらくしてそこが宅地になっているとがっかり。これ以上マンションを作らないで。
- ・ 農業への関心は高いので市の方向として農業をもっと大切に、誰もが作物を作れるようなプランを。食べること、作ることは子どもからお年寄りまで欠かせないことなので子ども中心のイベントだけではどうか思う。街の中にマンションの屋上でも庭先でも菜園があると楽しい。市の魅力にもなるようなイベントを。三鷹に負けている。ボランティアより進んだ収入を得るような市民組織を作れば。農家やJAとかかわりがもっと身近になると良い。農は大切に思うが人の顔が見えず他人事の様。
- ・ 地元野菜が手に入る場所が吉祥寺にあると良い（あるかもしれないが知らない）
- ・ 後継者のいない農地の維持管理。生産者の直売所の販売と一般青果商の兼ね合い。直売所で沢山売れば青果商の販売が減少する。
- ・ 農業や緑地を大切にしたい街づくりは素晴らしい。緑がないと住みにくい。
- ・ 武蔵野市に農業や農地があることを知らなかった。北海道や長野に比べ土地も小さく住宅も沢山ある市なので、空気が悪いイメージがあり美味しい食べ物に結びつかない。
- ・ 宅地化が進むとほとんど庭のない建物だけの街になってしまう。農地があるとホッとする。緑の環境を守るためにも農地を減らさないようにしてほしい。手入のしていない農地があるとがっかりする。農業が続けられる仕組みを考えて。
- ・ 農地の緑、その上に広がる空を見ては農地のある土地に住んでよかったと感じる。都心で働いている主人も武蔵境の駅を降りるとホッとすると。季節を通して生産者の仕事を子どもに見せることができ食に対する関心を高められる。
- ・ 農地の風景が住まいの近くから消えてしまうのは困る。この風景が気に入って現在の土地を購入し越して来た。農業を継ぐ人がいないのが問題ならば観光農園などにして収益率を高めても良い。現代人は土いじりに飢えているはず。
- ・ 武蔵野市は緑が多くて美しいと都内に住む友人親戚が言う。農地が沢山あって季節ごとの野菜の緑が美しく心むむ思い。こんなに青々している野菜が沢山あるのに殆ど食料を輸入に頼らなければならないことが不思議に思える。将来のこと、孫のこと、その先のことを考えると心痛む思い。農業の多い緑多い武蔵野市は今将来のことを真剣に考えなければならぬ。これ以上緑を壊さないで。マンションはもう充分。
- ・ スーパーに並べば買う。ただ近くのスーパーの地産コーナーはすぐ売り切れている。品数と量を増やして。
- ・ 武蔵野市独自の方策があるのは当然と考えるが、三鷹、府中、西東京等をまとめた広域での運営を行わなければ有効・有益（住民にとって）な企画事業は行えないと考える。農業・農地問題は武蔵野市だけで考えたり実行できるものではない。
- ・ 武蔵野市は緑と人間が共存しているから魅力あり住みたい町になっている。緑を減らしてほしくないし、より共存できるように市民の一員としてもっと積極的に取り組んでいかなければならないと感じた。武蔵野市にわざわざ足を運ぶ人も多いし、人の集まる場所でアピールしていくのは良い。若い人がもっと興味を持つようにインターネットや携帯などで気軽に参加できたり自分たちで育てている野菜などが動画で観察できる等といったシステムもあったほうが良い。きっと農業に対して古いイメージがあるのでインターネットを使ったほうがイメージが変わると思う。武蔵野産の野菜を使っているレストラン、カフェを直営店に併設するなど。
- ・ 今回のアンケートによって初めて武蔵野市でこんなに多い作物が生産されていることを知った。直売所に頻繁にいけばよいが時間がないので市内のスーパー等で購入できるようにしてもらいたい。
- ・ 近所に農地が見当たらないので今回のアンケートによって初めて武蔵野市でこんなに多い作物が生産されていることを知った。フルタイムでの勤務なので夜買物。農業・農地に思いを馳せることがなかった。
- ・ 休耕地はあまり見られず、しっかり農業を営んでいる印象。市民農園を増設するなど市民の農業参加を促す施策が良い。JRから見える御殿山の市民農園など。地元の野菜は新鮮なのでぜひ購入したい。（長時間の営業は不要。欧州の市場のように早朝から午前中）ある程度「ここに行けば野菜が買える」と無駄足にならないショップがあれば活用利用したい。（スーパーより新鮮で安価が望ましい）。生ごみは、FFビルのようにたい肥化し、もっと各戸からのごみを再生できると良い。
- ・ 子どもの頃、家の前は畑だった。現在は住宅が建ち並び空間がなくなって開放感が感じられない。時々農家の販売している野菜を購入しているが新鮮で美味しい。
- ・ 相続による農地の減少に歯止めをかけ農業で生計を立てられるよう行政の支援を。
- ・ 住んでいる関前には農業公園がある。毎日自然を近くに感じることができ、収穫された野菜を美味しく戴いている。子どもを育てる環境としても緑が多く良好に思える。新宿育ちだが、都会にはなくなった武蔵野の風景がとても好き。地域住民と農家が協力し合いいつまでもこの環境を残してほしい。それが武蔵野市の良さ、愛される理由だと思う。「都会に近い田舎」として武蔵野市に住み続けて行きます。

- まだこんなに農地があるんだ、という思いが一番。スーパーに市内産コーナーがあると必ず見るが、もっと多くのものがあり、駐車場もある市場があると良い。
- 吉祥寺はおしゃれなショッピングの町として有名ですが近くに農地や直売所があるということはオアシスのようで安らぎを感じる。できるだけ農地を残してほしい。市民農園をもっと増やしてほしい。
- 武蔵野市特に吉祥寺周辺では都市化が進み大規模なマンションやビルばかりで空が狭く感じる。せめて駅から少し離れた辺りでは大きな空が見えるように広い農地を残して。子どもたちの目にもアスファルトとコンクリートの灰色ばかりでなく、自然の土の茶色、野菜の成長する緑色がいつも目に入るようにしておきたい。自然の色を見て育つ子は心が豊か。安心して子どもを育てていけるようもっと農地を残して。
- 住居のすぐ近くに農地がある。毎日目にする野菜の成長を子どもと楽しむ。本当に素晴らしい武蔵野市。ずっと住み続けたい土地だ。
- 都市の中で農地を守り農業を続けている農家の人は素晴らしい。よく手入れされた農地を目にし、日々育つ野菜を見るのは楽しく、これからも農業を続けてほしい。住宅地の中で広い畑があると空間が開けて空が大きく見えるので、空間の観点からも貴重な存在。
- 価格が少し高くても安心安全なものを作ってほしい。これ以上農地を減らさないでほしい。
- 農地は緑化保全、防火対策、避難場所のほか、一番大事な子どもたちの教育の場として大変重要です。農地を残していくのは難しいが、最近ある「道の駅」では行列ができ農産物が飛ぶように売られている。武蔵野市も特徴ある農産物が生産できれば良い。
- 武蔵野市に住んで40年以上なのでアンテナショップや直営所の場所は知っている。新しく住む人にPRやスーパーでの販売が武蔵野市の野菜を広めていくと思う。道の駅のような武蔵野野菜ショップはないのでしょうか。
- 自宅が西荻窪に近い南町に住んでいることもあり、武蔵野市の野菜作りを身近に感じたことはない。スーパーデパートの食料品売り場、JA全農の店で扱っている「地元野菜コーナー」で見かける野菜は購入しているが、農家の方の情報は三鷹の農家が殆ど。平日は勤務のため土日にアンテナショップに行ってもあまりなかったり、平日の夕方は売り切れだったりという印象。
- 農地が多くありがたい。地元の安心野菜は嬉しい。しかし天候被害もある中、あれほどの安価でやっていけるのか心配。農地が世代交代で減っているのでは日本の食糧自給率を下げている。補助金でなく農業を体験しやすいようになれば良い。

## 【回答】（市民農園利用者）

- 市民農園を少しでも増やしてほしい。作付け、手入れの指導が受けられるようにしてほしい。
- 無理に農地として残しても農業としてやるわけではなく、たまに作物を育て、実がなくてもそのままというのを見る。市民農園や市民の農業参加は良い、その中でやる気、技術のある人に農地を市から貸して農業をしてもらうのはどうか。
- 市内の直売所の野菜は新鮮でとても美味しいので良く利用するが、農業散布の回数や種類はどこで開示されているのか。生協の宅配などでも知りたいときに調べられるので、市でもJAの直売所など生産者氏名だけでなく分かりやすく公開してほしい。市民農園はとても人気でなかなか当選しないので、ぜひ農園を増やして市民が農業を体験できるよう取り組んでほしい。
- 住宅の多い武蔵野市にはアスファルト、コンクリートだけの都市化はやめて。土の匂い、野菜の匂いのある農地はぜひ残してほしい。
- 昔農地だった場所がマンションになっている感じがする。小学生の時感じた武蔵野市の農地は今と違う感じ。
- 都市化の進む最近だからこそ農業、農地を大事にしてほしい。土に触れる楽しさ、植物が育っていく過程を子どもたちに味わってほしい。時々子どもたちがジャガイモやサツマイモの畑で伸びやかに生き生きした様子を見るとホッとします。
- 季節を感じる。毎日大変。後継者はいるのか。全部宅地にならないで、緑を残してほしい。
- 今年4月に市民農園を借り野菜作りを楽しんでいる。市民農園の抽選倍率は高く借りたくても借りられない人も多いので、もっと市民農園を増やして。そうすればより多数の市民が農業に関心を持つようになる。
- 後継者問題等で農業が続けられない農家が多いと聞くが、一方では野菜作りを楽しみたい市民が増えている。このギャップを埋める施策を積極的に実行して。
- 中道通りにある八百屋さんは近郊のオーガニック野菜農家を探して仕入れている志の高い八百屋。ここの野菜は他の店と

ぜんぜん違う。椎茸は原木栽培で旬の野菜は量り売り。三鷹の2代続く無農薬栽培の農家から直接仕入れる。武蔵野市だけでなく三鷹市や近郊の市と共同で農家の野菜にグランプリを与える制度やこの店を交えた安全で美味しい野菜作り、若者たちの参加の機会など含めたイベント開催などを市として派手に取り組んでほしい。参加している市民農園では大学教授やネパール料理の店の家族も参加し、大人の社交場になっている。これをもっとPRして。若者向けにもっと他の農業専門誌などとのコラボを。

- まじめに野菜づくりに取り組んで新鮮な野菜を供給してくれる農家も多数あり、いつまでも頑張ってもらいたい。その反面「生産緑地」とは名ばかりで、税金逃れのためか栗や柿を植えただけで手入れをしている様子もなく、また販売もしていないところが目に付く。こまめに厳しく管理指導をしてほしい。
- 市民農園を楽しんでいる。当市に住んでいることを誇りに思う。自分で野菜を作るようになってから農家の苦勞を感じる。葉に虫食いの跡がある野菜を選んで買うようになった。もっと農家の方と接する機会があったら（例えば収穫期のボランティア）是非参加したい。頑張れ農政課
- 武蔵野市内で専業農家を育成することには経済的に無理がある。都市化が進む中で公共的な緑地を確保（公園や空地）を確保することは大切だが、農家を育成することとは違う。
- 市民農園を増やしてほしい。直売所マップがほしい。
- 都市化による土地所有者の経営意識は自由であろうが、段階的にマンションや賃貸住宅にされるために、雑然とした街並みになってきている。例、境から三鷹への道路のアツデン西辺り。もう少し計画性、夢のある街並み、区画づくりが望ましい。
- 日ごろから新しく家が建てられるのを見るととても残念。武蔵野は都会でありながら公園が多くあり農地も多く残っていることが素晴らしい。ぜひ緑を残してほしい。武蔵野タワーズが建てられたときも残念だった。梅林からの涼しい風を楽しんでいた。土地は人の所有であり仕方ないのは分かるがそのような土地こそ守ってほしい。武蔵野にはあのような高層マンションは似合わない。できるだけ農地を守ってほしい。
- 武蔵野市の農地は広くて作物もきれいに育ち、季節を感じられとてもよい。ブルーベリー、ブドウ、とうもろこしを農地に子どもと収穫に行ったが農家は親切だし、値段も手間を考えたら妥当。（スーパーと比べたら割高だが）市民農園も沢山あり、設備も良い。農業振興に頑張ってもらいたい。
- 市民農園で農家の息子さんたちの指導などで助かっている。市内の後継者も若い人が多いので先々楽しみ。
- 市民農園の契約が2年は短すぎる。
- 農地をしているだけで職業としてやっていくという気概が見えない。節税として農業継続をする人が多いのでは。
- 散歩などするとまだ畑があったり栗林があったりするとホッとする。日本は自給率が低いのでもっと農業が身近なものになってほしい。安心、安全、新鮮な作物作りを大事にしてほしい。
- 四季折々の作物が育つ畑の風景を眺めているだけで穏やかな気持ちになる。ビルのひしめき合う大都会からの帰り道、市内に入って畑を目にしたときなどはホッとする。近年後継者がいないのか、農地がマンションに変わっていくのを見ると残念。武蔵野市の農業の益々の発展を願っています。
- 60年以上市内在住。昔の畑の思い出が多く段々住宅になってしまい残念。会社を定年退職し今年初めて「農業ふれあい村」に参加。農業は見ているだけでは分からないことが多く大変勉強になっている。残念なのは4月から1月まででぜひ冬を越し春に収穫できる野菜も勉強したい。自分で農業をしてみよう野菜の値段が分かる気がする。農家の人が畑を長く続けられる環境市政を望む。
- 市民農園を増やしてほしい。直売所マップがほしい。中々当たらない。
- 市内に土地を持ってない地方出身者にとって、農作業と自分は関係ない、できないと思っている人が多いと思う。狭い土地であっても多くの人に農作業の教育を受けられ、体験できる施設、5年位継続して使える施設、市民交流の場として、自然と食の安全と知識を吸収する機会等、地方出身者が参加できる場を設けてほしい。
- 4月から初めて市民農園を借り家族で作物を作ることができ楽しみ、喜んでいる。農地を宅地化し建物が建ってしまっただけで最後。大切に守って。小学校でも農園で沢山の野菜を作り食べるというシステムがある。これからの市のためにも、子どもたちのためにも活力ある武蔵野市であってほしい。国立市で20㎡月1万円で借りる農園があり、値段の高さにびっくり。市民農園が安いことに感謝。農家の方をやさしく守ってください。
- これからも農地を減らさず、市民に安価で新鮮な野菜を供給してほしい。
- 武蔵野市の農業を今以上に維持し続けてもらいたい。市民農園を減らさずできれば増やしてほしい。
- 4月から農業塾に参加。子どもの友人の親が昨年参加し、子どもが自分もやってみようと言ったのが理由。素人なのでできるか不安だったが今は夢中。残念なのが1年限りであること。昨年参加した方は今年落選。結局習ったことを実践でき

ず悲しんでいた。せっかく塾で学んでもそれを生かせる場がないのはどうかと思う。市内産の野菜だがJAや直売所以外では見かけない。直売所がどこにあるか分からず地図など作ってほしい。

- 市民農園を利用し子どもたちに自分が食べているものがどうやってできるのか、また生物に対する考え方が育ち大変有意義。ありがとうございます。地産地消は大切、安全な食べ物を目に見える形で家庭の食卓に届くよう頑張ってください。
- 地産地消は生活が豊かになる。育てて食べる喜びを市民で分かち合いたい。もっと気軽に産地の野菜が買えると嬉しい。
- 抽選にあたり、農業ふれあい公園の農業塾に参加。周りには落選者が多い。自分も含め皆子どもがおおり、子どもに食育を学ばせたいとの思い。自分の子どもは自分で作る事で嫌いだったきゅうりも好きになりご飯も残さず食べるようになった。たった数ヶ月で野菜だけでなく子どもものすごく成長した。借りたくても借りられない人、知らない人も多い。もっと皆に知ってもらい沢山の子どもに美味しい野菜、物の大切さを学んでもらいたい。できれば農地が少しでも増え、少しでも多くの方に野菜作りの楽しさ、感動を味わってほしい。もっと参加したい。
- 南町地域には農地はあまりないが、できれば市民農園をもう1箇所増やしてほしい。南町3丁目にもかなり大きな農地があり若干耕作されているが、この一部を市民農園として使えるよう地権者と交渉してもらいたい。地権者にとっては負担が減り、市としても農地が残ってよいのでは。
- 関前あたりに広々とした農地が広がっているのを見るとホッとする。季節の移り変わりが良く感じられる。経営的には厳しいがぜひ農地は残してほしい。スーパーでも地元野菜を扱えば買いやすい。販売の拡大を。
- 武蔵野市は土地価格が高いと思うが、地元の新鮮な野菜を食べられ、贅沢で幸せ。都会育ちには農業は少し距離感がある。マンション生活の人も増え、土に触れる事を知らない大人も子どもも増えている。身近なところに畑があり野菜の花を見たり、どんな様子で育つのかを子どもに見せるため、土日に畑をしたいサラリーマンのために開放してもらいたい。ただ農家の側からは責任感の乏しい他人に畑を使われトラブルになったら面倒という意見があることも分かる。うまく解決できるようなシステムを行政で考えて。食はみんなの基本です。
- 【記載が多いため要点のみ】4月から農業体験教室を受講、嬉しい。机上学習と専門講師の指導を受け、全員同一作物を栽培。素晴らしい内容だが希望者が多く一部の人だけで期間も10か月に限られている。もっと講座を増やしてほしい。武蔵野市の宅地の固定資産税は大変高いが、農地は極端に安いと聞いている。30年間の農業継続を条件とした「生産緑地制度」をはじめて知ったが、逆に言えば30年間安い固定資産税で土地を保有できる特権階級に対する優遇策でしかない。近郊農地では手間のかからない栗林にするなどと聞いた。兼業とか後継者とか問題はあるが農家ももっと努力する必要がある。直売所の野菜も家庭菜園と変わらず、内容に比べ高価で買う気がしない。中にはしっかりやっている農家もあるが近所は自家用栽培と税金対策。もっと本格的に栽培し、市内への流通方法を考え、新鮮で安い農産物を消費者に提供すべき。農地は重要な緑地でありありがたい存在だが、農家だけが既得権益として農地税制の特典が目立てば一般国民は納得しない。マンション建設の際土地の一部を公園緑地として開放させると同様に農地も優遇税制と引き換えに市民への還元する制度を作らなければ優遇を受ける資格はない。市は市民の立場に立ち公平で暮らしやすい生活ができるよう行動してほしい。
- 農業ふれあい公園を利用。はじめて農業体験で自分の作った作物に感動。市民農園が増え利用しやすくなるのを希望。JA新鮮館や直売所は行く時間により品数や量が少ないことが多く、買いに行くというより通りかかったときに利用する程度。スーパーで武蔵野産のコーナーがあればもっと買いやすい。

## 武蔵野市農業振興基本計画見直し検討委員会設置要綱

(設置)

第1条 武蔵野市農業振興基本計画（以下「計画」という。）の成果の検証及び見直し、今後の農業振興の在り方等について調査及び検討を行うため、武蔵野市農業振興基本計画見直し検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所管事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について調査及び検討を行い、その結果を市長に報告する。

- (1) 計画の成果の検証及び見直しに関すること。
- (2) 農業の現状及び課題に関すること。
- (3) 今後の農業振興の在り方に関すること。
- (4) 農業経営基盤に関すること。
- (5) 前各号に掲げるもののほか、農業振興の在り方について市長が必要と認める事項

(組織)

第3条 委員会は、次に掲げる委員で組織し、市長が委嘱し、又は任命する。

- (1) 武蔵野市農業委員会会長
- (2) 学識経験者 2人
- (3) 武蔵野市農業委員会委員 3人
- (4) 公募による委員 2人
- (5) 農業関係者 1人
- (6) 武蔵野市環境生活部長

(委員長等)

第4条 委員会に委員長及び副委員長各1人を置き、委員の互選によりこれを定める。

- 2 委員長は、会務を総括し、委員会を代表する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(委員の任期)

第5条 委員の任期は、平成23年3月31日までとする。

(会議)

第6条 委員会の会議は、必要に応じて委員長が招集する。

- 2 委員会が必要と認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、説明若しくは意見を聴き、又は資料の提供を求めることができる。



3 委員会の会議は、公開とする。

(報酬)

第7条 委員会の委員の報酬については、武蔵野市非常勤職員の報酬及び費用弁償に関する条例(昭和36年2月武蔵野市条例第7号)第5条の規定により、市長が別に定める。

(事務局)

第8条 委員会の庶務は、環境生活部生活経済課が行う。

(その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、委員会について必要な事項は、市長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成22年4月20日から施行する。

## 武蔵野市農業振興基本計画見直し検討委員会委員名簿

氏 名	構成区分	所 属 等	備 考
たなか まさのり 田中 政伯	農業委員	農業委員会会長	委員長
しみず しげる 清水 茂	農業委員	農業委員会会長職務代理	
いぐち よしかず 井口 義一	農業委員	土地利用特別委員会委員長	
なかむら しげる 中村 繁	農業委員	農業経営特別委員会委員長	
きたざわ としはる 北沢 俊春	学識経験者	東京都農業会議業務部長	
いぐち よしみ 井口 良美	学識経験者	東京むさし農業協同組合 武蔵野地区筆頭理事	副委員長
さいとう みずえ 齋藤 瑞枝	公募による委員	市 民	
すずき ゆういち 鈴木 祐一	公募による委員	市 民	
たけうち あきひろ 竹内 昭博	農業関係者	一般農業者	
ほりい けんじ 堀井 建次	武蔵野市	環境生活部長	

## 武蔵野市農業振興基本計画見直し検討委員会会議経過

開催年月日	開催種別	主 な 内 容
平成22年5月31日	第1回委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委嘱状交付</li> <li>・検討委員会の運営について</li> <li>・現行計画の実施状況について</li> <li>・アンケート調査の実施について</li> </ul>
平成22年8月5日	第2回委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートの集計結果について</li> <li>・農業振興基本計画施策の体系について</li> </ul>
平成22年8月8日	第3回委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画・目標値の見直しについて</li> <li>・パブリックコメントの実施について</li> </ul>
平成22年 10月15日～29日	パブリックコメント募集	<p>見直し案に対する市民の意見募集</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・冊子とホームページ掲載によりメール・FAX 郵便等により受付</li> </ul>
平成22年11月24日	第4回委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パブリックコメントについて</li> <li>・農業経営基盤の強化の促進に関する基本構想の改定について</li> <li>・農業振興基本計画見直しの報告書について</li> </ul>
平成22年12月17日	第5回委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最終報告書案について</li> </ul>